

---

守山市  
在宅介護実態調査  
結果報告書

---

令和 8 年 3 月



## 目次

|                                            |    |
|--------------------------------------------|----|
| 1. 調査概要 .....                              | 1  |
| (1) 調査目的 .....                             | 1  |
| (2) 実施概要 .....                             | 1  |
| (3) 配布件数、有効回答件数及び回答率 ※ ( ) 内は前回調査 .....    | 1  |
| (4) 留意点 .....                              | 1  |
| 2. 回答者の属性 .....                            | 2  |
| 3. 結果の概要 .....                             | 3  |
| A 票（調査対象者本人向け調査票） .....                    | 3  |
| B 票（調査対象者の主な介護者向け調査票） .....                | 11 |
| 集計分析結果：5つの検討点からの分析 .....                   | 18 |
| (1) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討 .....      | 18 |
| (2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討 .....      | 24 |
| (3) 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討 .....      | 31 |
| (4) 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討 .....    | 33 |
| (5) 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討 ..... | 36 |
| (6) その他 .....                              | 39 |



## 1. 調査概要

### (1) 調査目的

本調査は、「第 10 期守山市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」の策定に向けて、在宅で介護を受けている方を対象に、在宅生活の継続に必要な支援や、介護者の就労状況などを把握し、今後の介護サービスのあり方の検討に向けた基礎資料とすることを目的に実施しました。

### (2) 実施概要

|      |        |                                                 |
|------|--------|-------------------------------------------------|
| 調査対象 |        | 要支援 1・2、要介護 1～5 の認定を受けている 65 歳以上の高齢者から無作為に抽出した方 |
| 実施方法 | 郵送配布   | 郵送配布、郵送回収、期間中に 1 度礼状兼督促はがきを送付                   |
|      | 聞き取り調査 | 要介護認定調査員による記入、聞き取り調査方式                          |
| 実施期間 | 郵送配布   | 令和 7 年 12 月 22 日（月）～令和 8 年 1 月 21 日（水）          |
|      | 聞き取り調査 | 令和 7 年 12 月 9 日（火）～令和 8 年 1 月 30 日（金）           |

### (3) 配布件数、有効回答件数及び回答率 ※（ ）内は前回調査

|        | 配布件数             | 有効回収件数       | 有効回収率              |
|--------|------------------|--------------|--------------------|
|        |                  | うち WEB 回答の件数 | 有効回収に占める WEB 回答の割合 |
| 郵送調査   | 1,000 件（1,000 件） | 714 件（689 件） | 71.4%（68.9%）       |
|        |                  | 113 件        | 15.8%              |
| 聞き取り調査 | —                | 65 件（30 件）   | —                  |

### (4) 留意点

分析結果を見る際の留意点は以下の通りとなっている。

1. 「n」は「number」の略で、比率算出の母数。
2. 一部の設問では前の設問の回答内容などにより回答者が限られるため、母数が異なる場合がある。
3. 単数回答の場合、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第 2 位以下を四捨五入し、小数点第 1 位までを表記。このため、百分率の合計が 100.0%とならない場合がある。
4. 複数回答の場合、図中に MA（Multiple Answer＝いくつでも）、3LA（3 Limited Answer＝3 つまで）、2LA（2 Limited Answer＝2 つまで）と記載している。また、不明（無回答）はグラフ・表から除いている場合がある。
5. 「前回調査」とは、令和 4 年度に実施した同調査のことです。

## 2. 回答者の属性

上段：実数、下段：割合（％）

|      |       |       | 全体    | 要支援<br>1 | 要支援<br>2 | 要介護<br>1 | 要介護<br>2 | 要介護<br>3 | 要介護<br>4 | 要介護<br>5 | 無回答 |
|------|-------|-------|-------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----|
| 全体   |       |       | 779   | 157      | 149      | 239      | 115      | 58       | 38       | 14       | 9   |
|      |       |       | 100.0 | 20.2     | 19.1     | 30.7     | 14.8     | 7.4      | 4.9      | 1.8      | 1.2 |
| 性・年齢 | 男性    | 後期高齢者 | 26    | 5        | 5        | 12       | 3        | －        | －        | 1        | －   |
|      |       |       | 100.0 | 19.2     | 19.2     | 46.2     | 11.5     | －        | －        | 3.8      | －   |
|      | 前期高齢者 | 前期高齢者 | 223   | 52       | 35       | 58       | 34       | 27       | 12       | 4        | 1   |
|      |       |       | 100.0 | 23.3     | 15.7     | 26.0     | 15.2     | 12.1     | 5.4      | 1.8      | 0.4 |
|      | 女性    | 後期高齢者 | 40    | 5        | 12       | 11       | 3        | 1        | 7        | 1        | －   |
|      |       |       | 100.0 | 12.5     | 30.0     | 27.5     | 7.5      | 2.5      | 17.5     | 2.5      | －   |
|      | 前期高齢者 | 前期高齢者 | 482   | 95       | 97       | 158      | 75       | 30       | 19       | 8        | －   |
|      |       |       | 100.0 | 19.7     | 20.1     | 32.8     | 15.6     | 6.2      | 3.9      | 1.7      | －   |

### 3. 結果の概要

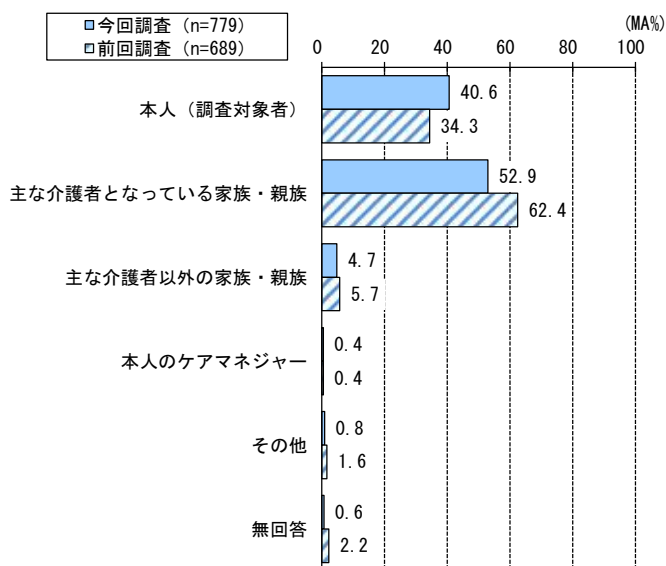
#### A票（調査対象者本人向け調査票）

- A問1 現在、この調査票にご回答を頂いているのは、どなたですか。（いくつでも○）

##### 【全体】

- 調査回答者について、「主な介護者となっている家族・親族」が52.9%で最も高く、次いで「本人（調査対象者）」が40.6%、「主な介護者以外の家族・親族」が4.7%となっています。

##### 【調査回答者】

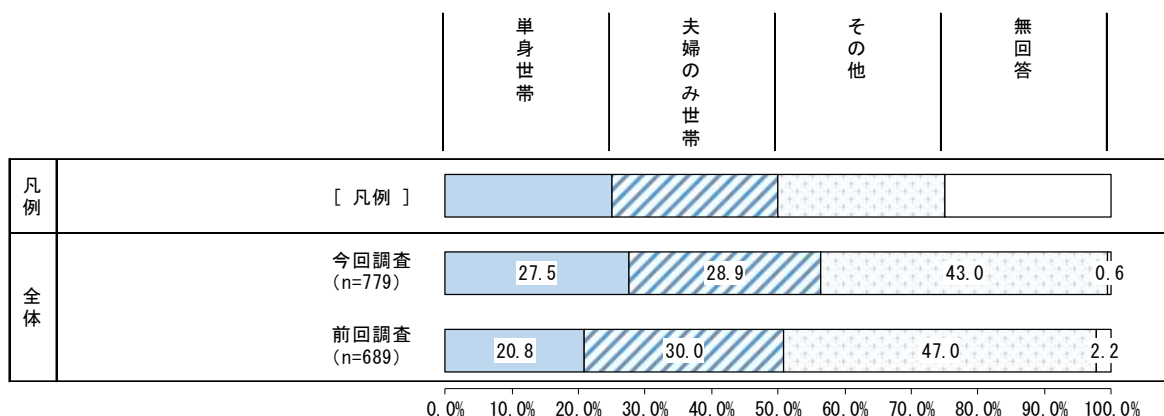


- A問2 世帯類型について、ご回答ください。（ひとつだけ○）

##### 【全体】

- 世帯類型について、「その他」が43.0%で最も高く、次いで「夫婦のみ世帯」が28.9%、「単身世帯」が27.5%となっています。  
○ 前回調査と比べ、「単身世帯」の割合が高くなっています。（20.8%→27.5%）

##### 【世帯類型】

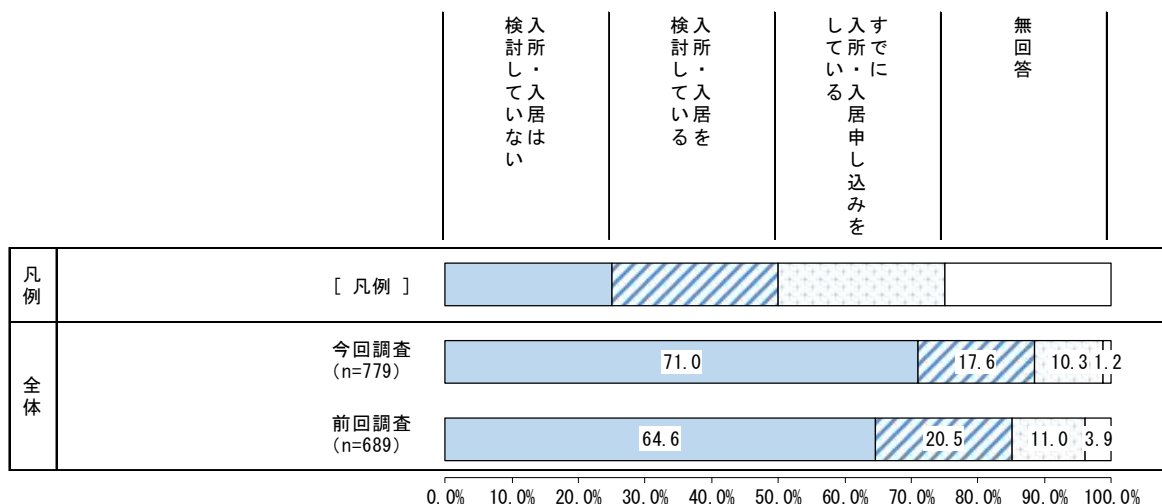


- A問3 現時点での、介護保険施設への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。（ひとつだけ○）

【全体】

- 介護保険施設への入所検討状況について、「入所・入居は検討していない」が71.0%で最も高く、次いで「入所・入居を検討している」が17.6%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が10.3%となっています。
- 前回調査と比べ、「入所・入居は検討していない」割合が高くなっています（64.6%→71.0%）。

【介護保険施設への入所検討状況】

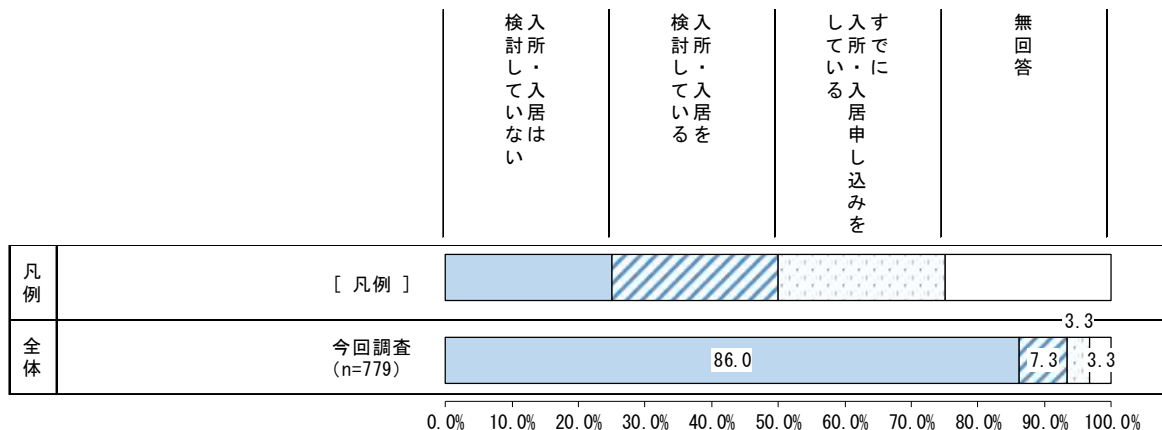


- A問4 現時点での、介護保険施設以外への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。（ひとつだけ○）

【全体】

- 介護保険施設以外への入所検討状況について、「入所・入居は検討していない」が86.0%で最も高く、次いで「入所・入居を検討している」が7.3%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が3.3%となっています。

【介護保険施設以外への入所検討状況】



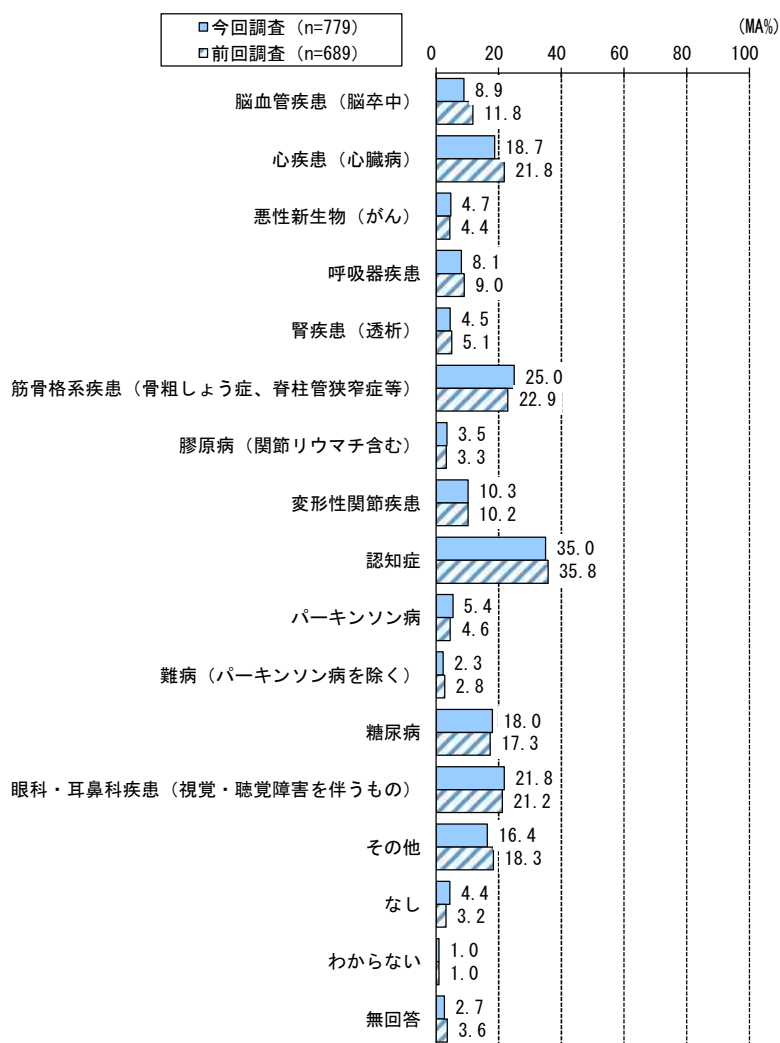


- A問5 ご本人（調査対象者）様が、現在抱えている傷病について、ご回答ください。（いくつでも○）

【全体】

○ 抱えている傷病（本人）について、「認知症」が35.0%で最も高く、次いで「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が25.0%、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が21.8%となっています。

【抱えている傷病（本人）】

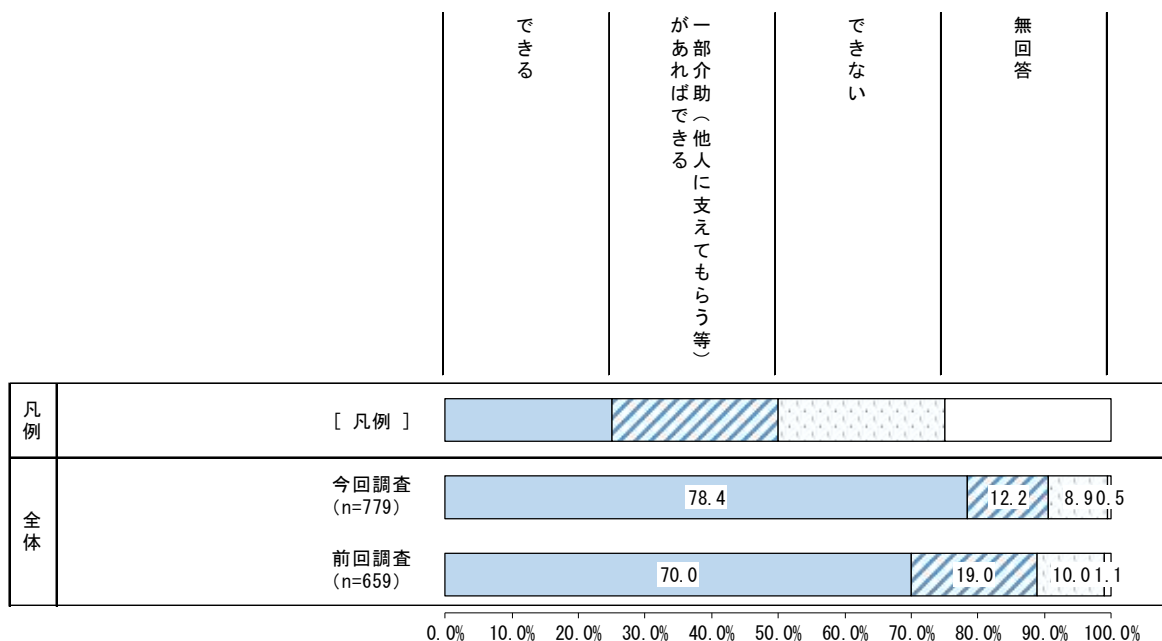


●A問6 ご本人（調査対象者）様は、自分ひとりで排泄ができますか。（ひとつだけ○）

【全体】

- 排泄動作の自立度について、「できる」が78.4%で最も高く、次いで「一部介助（他人に支えてもらう等）があればできる」が12.2%、「できない」が8.9%となっています。
- 前回調査と比べ、「できる」割合が高くなっています（70.0%→78.4%）

【排泄動作の自立度】

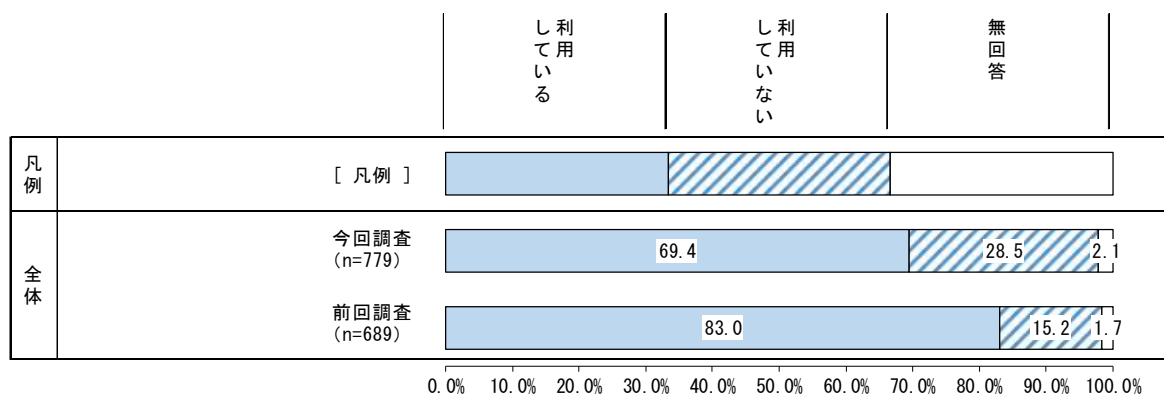


- A問7 現在、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の)介護保険サービスを利用していますか。(ひとつだけ○)

【全体】

- 介護保険サービスの利用状況について、「利用している」が 69.4%、「利用していない」が 28.5%となっています。  
○ 前回調査と比べ、「利用していない」割合が高くなっています (15.2%→28.5%)。

【介護保険サービスの利用状況】

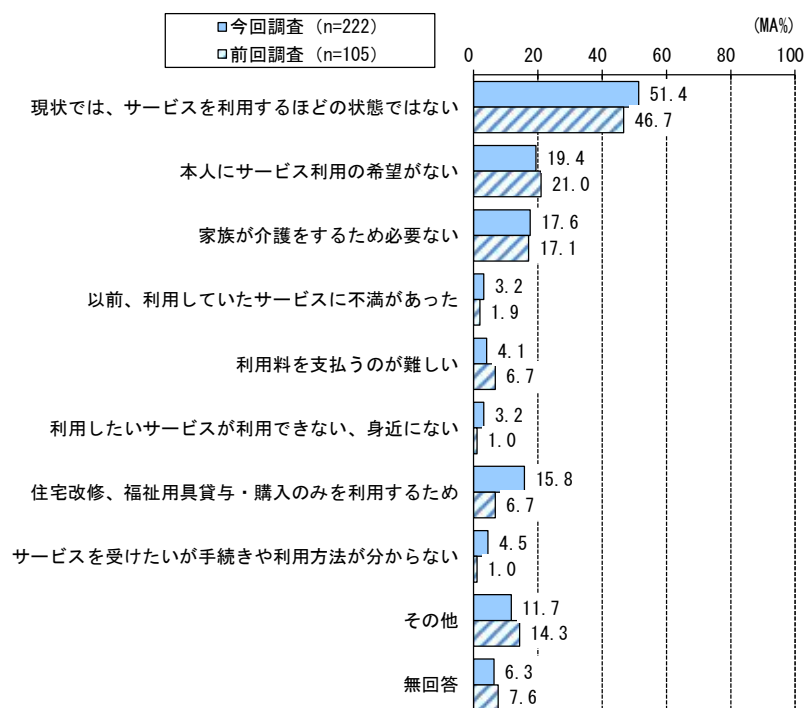


- A問8 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。(いくつでも○)

【全体】

- 介護保険サービス未利用の理由について、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 51.4%で最も高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が 19.4%、「家族が介護をするため必要ない」が 17.6%となっています。  
○ 前回調査と比べ、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」という割合が50%を超え (46.7%→51.4%)、また、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用する」割合が高くなっています (6.7%→15.8%)。

【介護保険サービス未利用の理由】

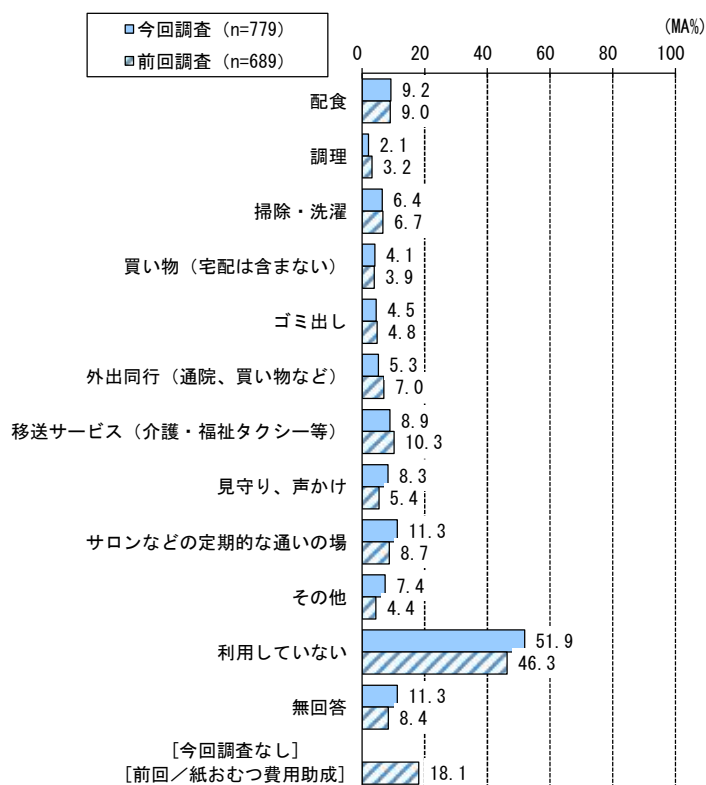


- A問9 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください。(いくつでも○)

【全体】

- 介護保険外サービスの利用状況について、「利用していない」が51.9%で最も高く、次いで「サロンなどの定期的な通いの場」が11.3%、「配食」が9.2%となっています。
- 前回調査に比べると、「利用していない」「見守り・声かけ」「サロンなどの定期的な通いの場」などが高くなっています。

【介護保険外サービスの利用状況】

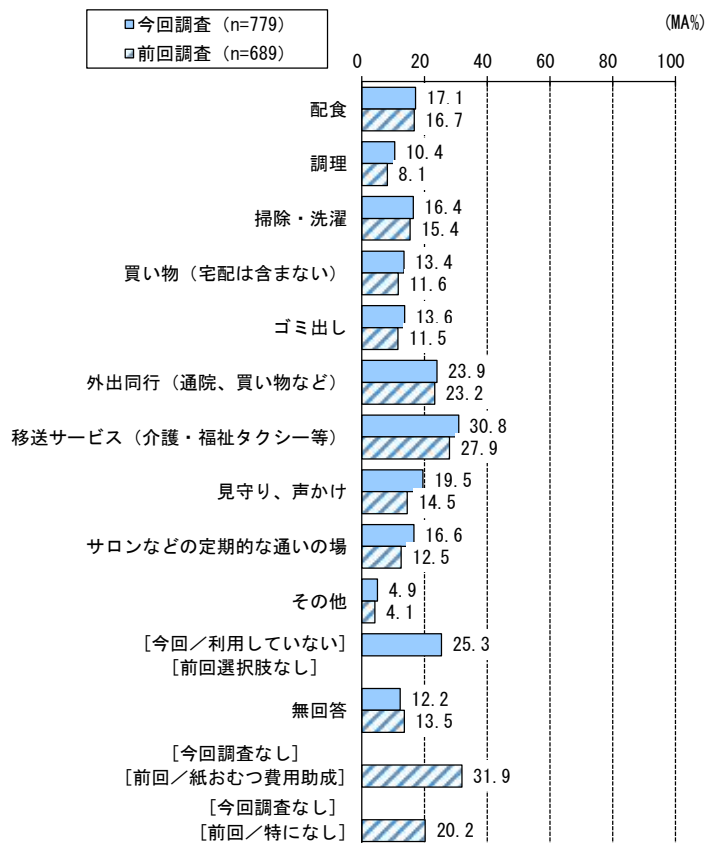


- A問10 今後の在宅生活の継続に必要な支援・サービスについて、ご回答ください。(いくつでも○)

【全体】

- 在宅生活継続に必要な支援・サービスについて、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が30.8%で最も高く、次いで「利用していない」が25.3%、「外出同行（通院、買い物など）」が23.9%となっています。
- 前回調査と比べ、「見守り、声かけ」（14.5%→19.5%）、「サロンなどの定期的な通いの場」（12.5%→16.6%）の割合が高くなっています。

【在宅生活継続に必要な支援・サービス】

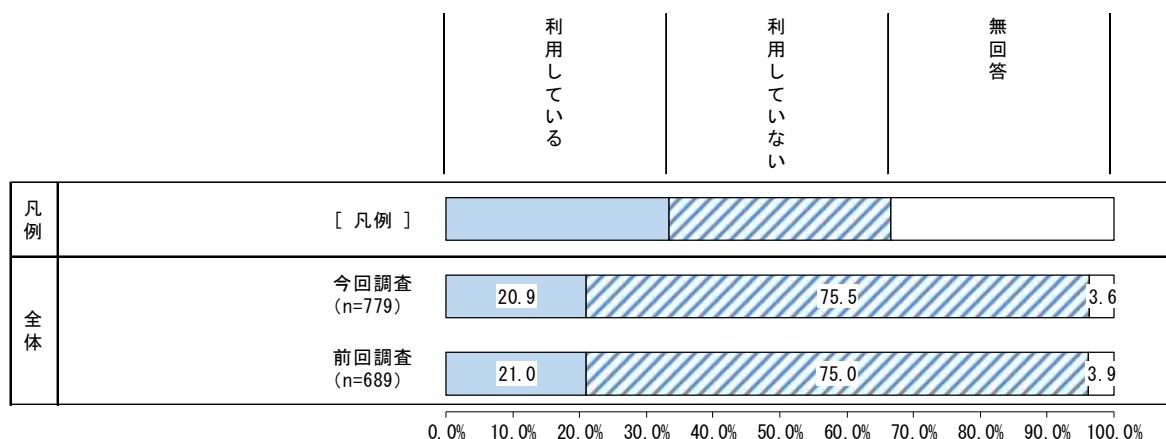


- A問11 ご本人（調査対象者）様は、現在、訪問診療を利用していますか。（ひとつだけ○）

【全体】

- 訪問診療の利用状況について、「利用している」が20.9%、「利用していない」が75.5%となっています。

【訪問診療の利用状況】

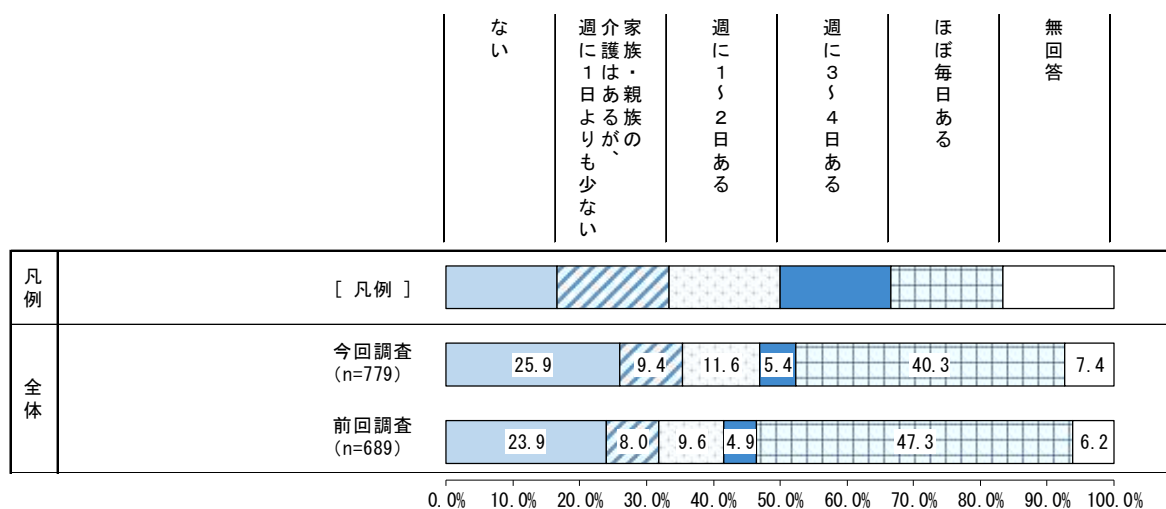


- A問12 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか。（ひとつだけ○）

【全体】

- 家族・親族による介護頻度について、「ほぼ毎日ある」が40.3%で最も高く、次いで「ない」が25.9%、「週に1～2日ある」が11.6%となっています。
- 前回調査と比べ、「ない」の割合が高くなっています（23.9%→25.9%）。一方、「ほぼ毎日ある」の割合が低くなりました（47.3%→40.3%）。

【家族・親族による介護頻度】



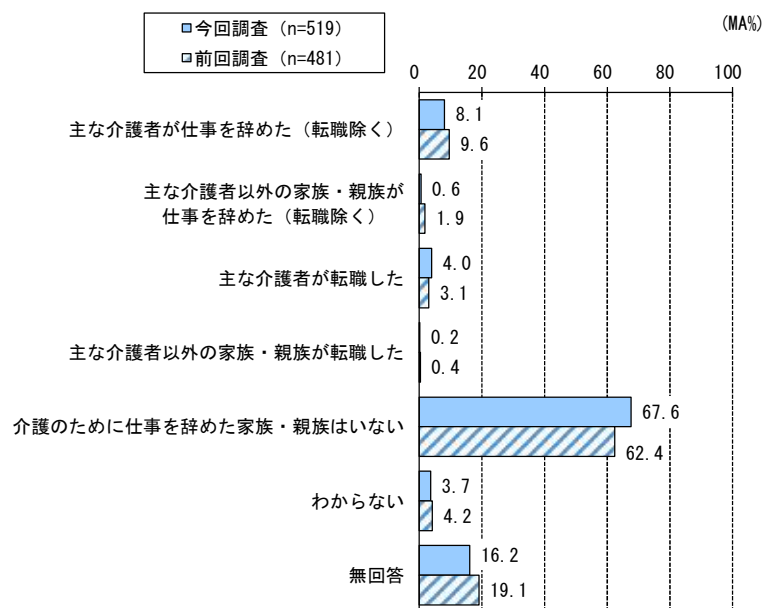
## B票（調査対象者の主な介護者向け調査票）

- B問1 ご家族やご親族の中で、ご本人（調査対象者）様の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか。（いくつでも○）

### 【全体】

- 介護離職者の有無（過去1年）について、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が67.6%で最も高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が8.1%、「主な介護者が転職した」が4.0%となっています。
- 前回調査に比べると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が高く（62.4%→67.6%）、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が低くなっています（1.9%→0.6%）。

### 【介護離職者の有無（過去1年）】

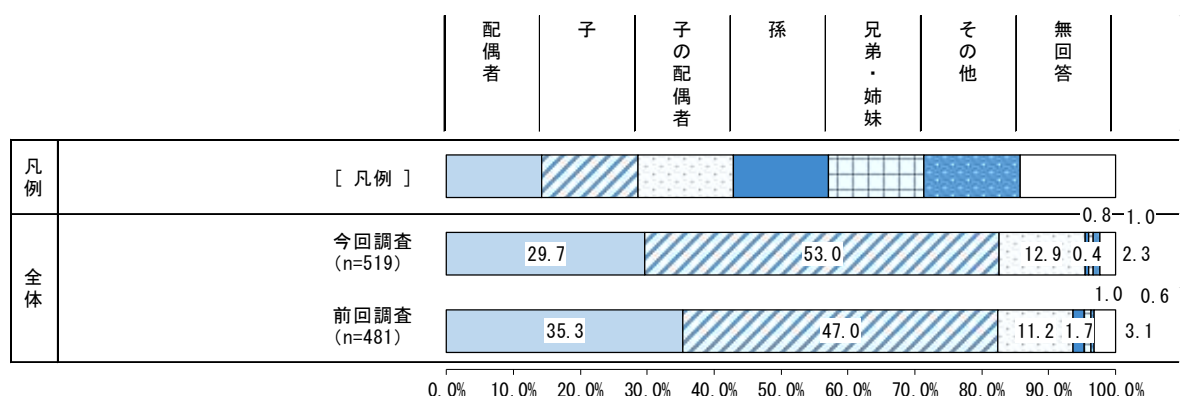


- B問2 主な介護者の方は、どなたですか。（ひとつだけ○）

### 【全体】

- 主な介護者について、「子」が53.0%で最も高く、次いで「配偶者」が29.7%、「子の配偶者」が12.9%となっています。
- 前回調査と比べ、「子」の割合が50%を超え高くなっています（47.0%→53.0%）。一方、「配偶者」の割合が低くなりました（35.3%→29.7%）。

### 【主な介護者】

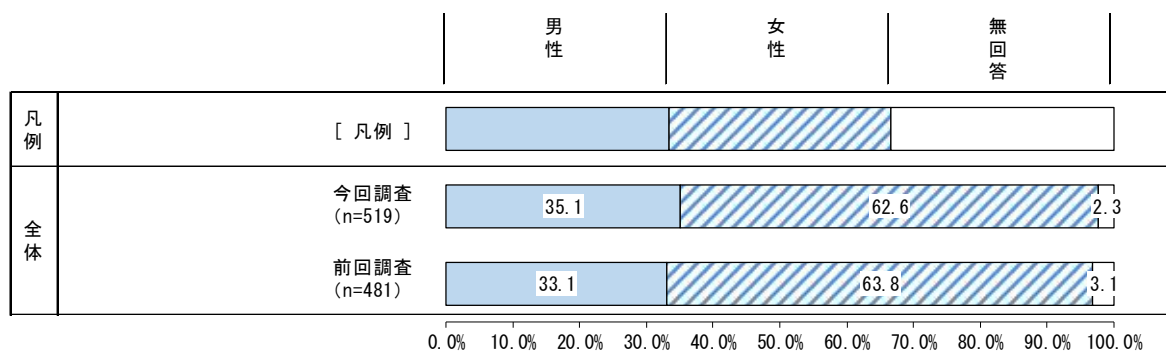


● B 問3 主な介護者の方の性別について、ご回答ください。（ひとつだけ○）

【全体】

- 主な介護者の性別について、「男性」が 35.1%、「女性」が 62.6%となっています。
- 前回調査に比べると、「男性」がやや高くなっています（33.1%→35.1%）。

【主な介護者の性別】

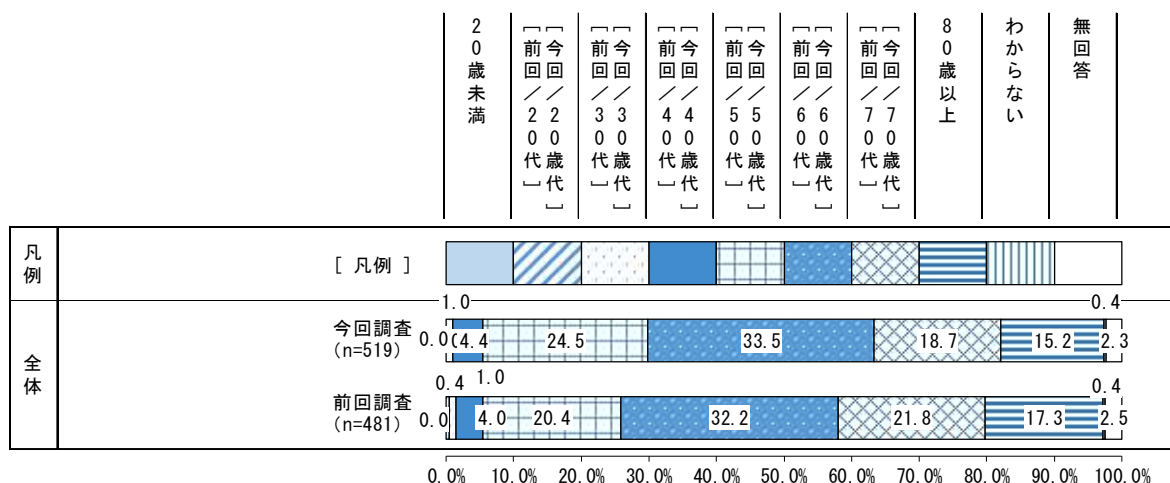


● B 問4 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。（ひとつだけ○）

【全体】

- 主な介護者の年齢について、「60 歳代」が 33.5%で最も高く、次いで「50 歳代」が 24.5%、「70 歳代」が 18.7%となっています。
- 前回調査に比べると、「60 歳代以下」が高く（58.0%→63.4%）、「70 歳代以上」の割合が低くなっています（39.1%→33.9%）。

【主な介護者の年齢】



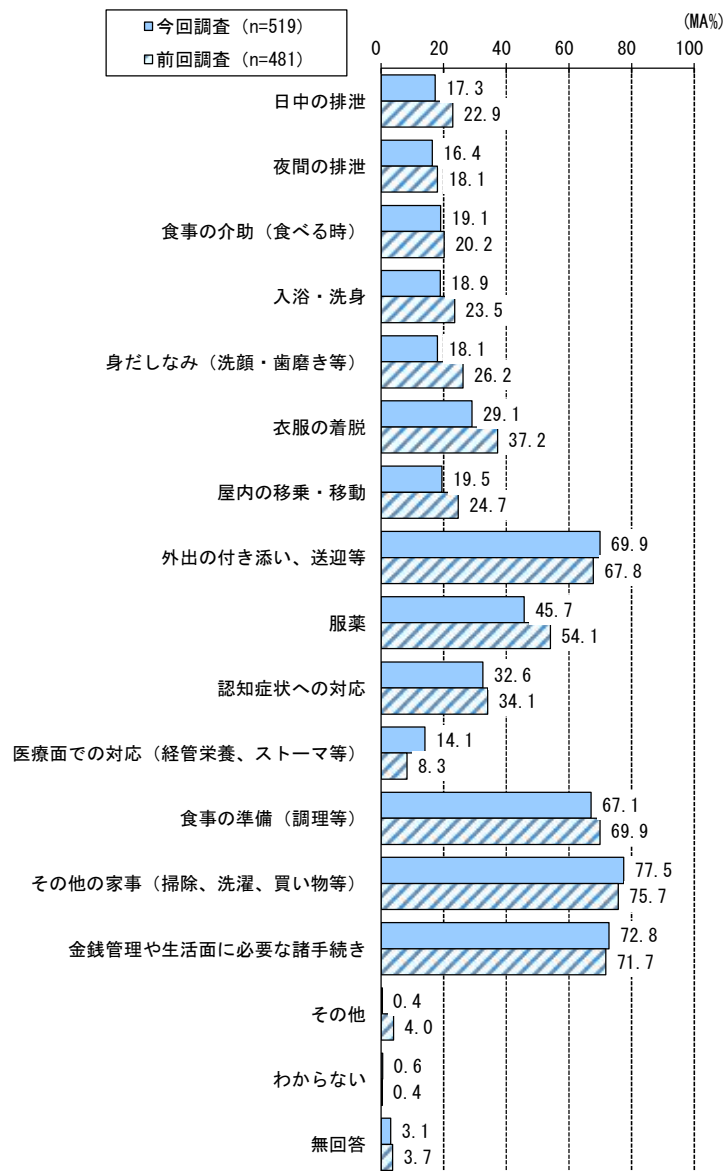


- B問5 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください。(いくつでも○)

【全体】

- 現在行っている介護の内容について、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 77.5%で最も高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 72.8%、「外出の付き添い、送迎等」が 69.9%となっています。
- 前回調査に比べると、「外出の付き添い、送迎等」などが高くなり（67.8%→69.9%）、「衣服の着脱」（37.2%→29.1%）「身だしなみ（洗顔・歯みがき等）」（26.2%→18.1%）などで低くなっています。

【現在行っている介護の内容】

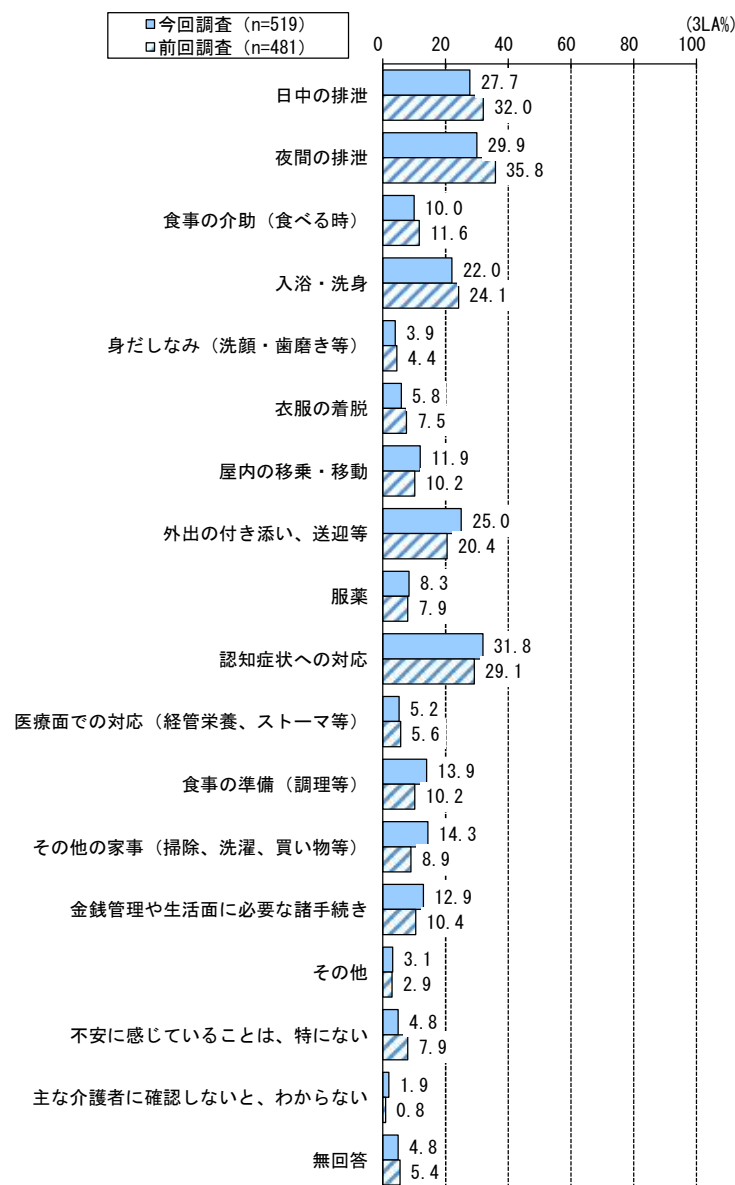


- B 問6 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください。（3つまで○）

【全体】

- 主な介護者が不安に感じる介護等について、「認知症状への対応」が31.8%で最も高く、次いで「夜間の排泄」が29.9%、「日中の排泄」が27.7%、「外出の付き添い、送迎等」が25.0%となっています。
- 前回調査に比べると、「外出の付き添い、送迎等」（20.4%→25.0%）「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」（8.9%→14.3%）が高くなり、「日中の排泄」（32.0%→27.7%）「夜間の排泄」（35.8%→29.9%）が低くなっています。

【主な介護者が不安に感じる介護等】

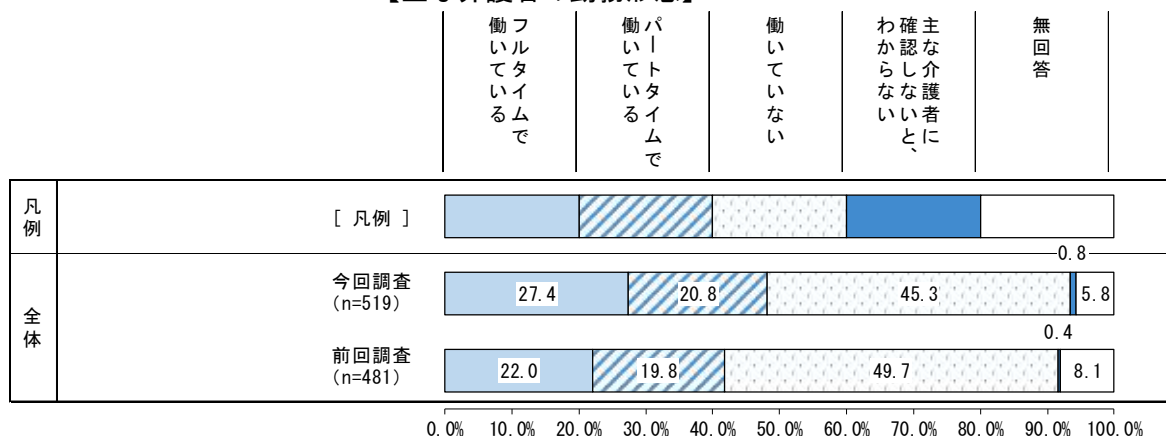


● B 問7 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。(ひとつだけ○)

【全体】

- 主な介護者の勤務形態について、「働いていない」が45.3%で最も高く、次いで「フルタイムで働いている」が27.4%、「パートタイムで働いている」が20.8%となっています。
- 「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」を合わせた“働いている”は48.2%となっています。
- 前回調査と比べ、“働いている”が高くなっています(41.8%→48.2%)。

【主な介護者の勤務形態】

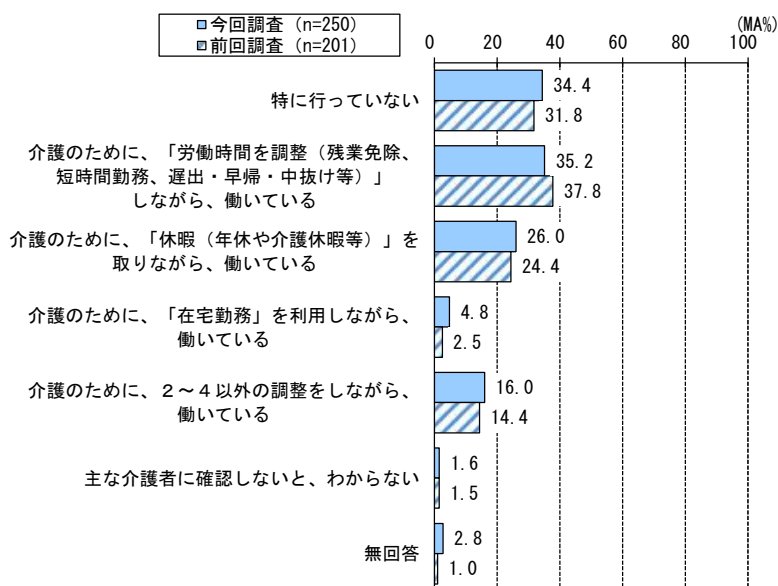


● B 問8 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていきますか。(いくつでも○)

【全体】

- 介護に伴う働き方の調整状況について、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が35.2%で最も高く、次いで「特に行っていない」が34.4%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が26.0%となっています。
- 前回調査に比べると、「特に行っていない」が高く(31.8%→34.4%)、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が低くなっています(37.8%→35.2%)。

【介護に伴う働き方の調整状況】

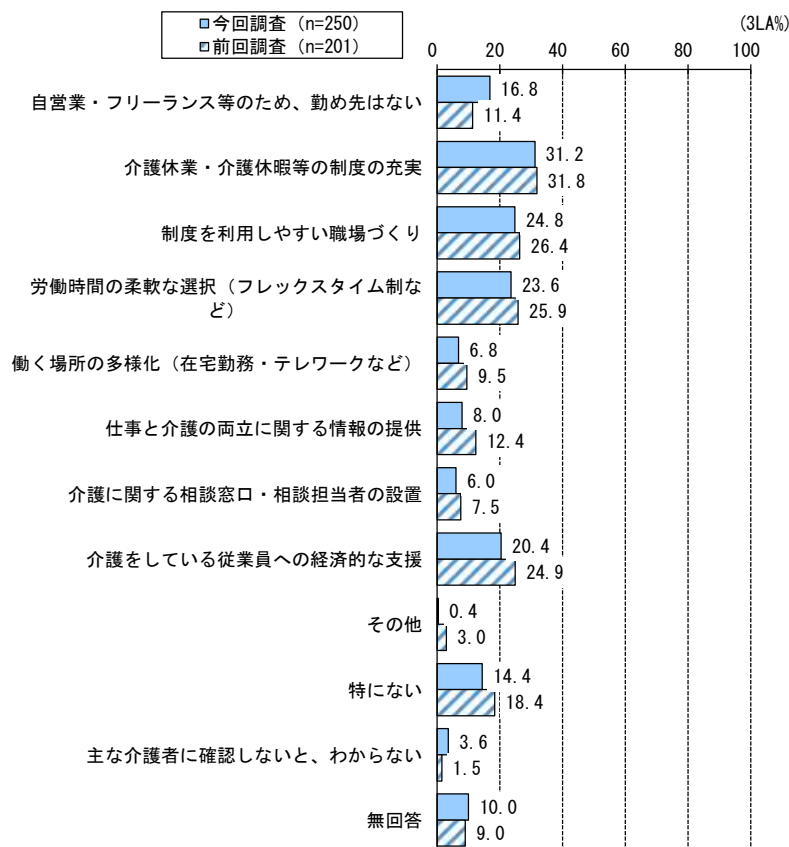


- B問9 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。（3つまで○）

【全体】

- 仕事と介護の両立に必要な職場支援について、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が31.2%で最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が24.8%、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が23.6%となっています。
- 前回調査に比べると、「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」が高くなっています（11.4%→16.8%）。

【仕事と介護の両立に必要な職場支援】

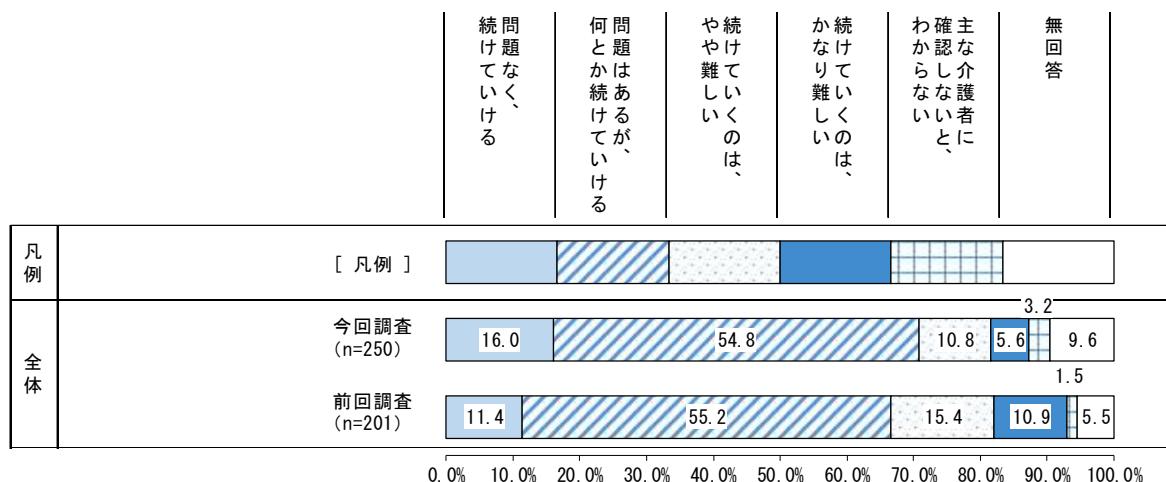


- B問10 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(ひとつだけ○)

【全体】

- 働きながらの介護継続の可否について、「問題はあるが、何とか続けていける」が54.8%で最も高く、次いで「問題なく、続けていける」が16.0%、「続けていくのは、やや難しい」が10.8%となっています。
- 前回調査に比べると、「問題なく、続けていける」「問題はあるが、なんとか続けていける」を合わせた“続けていける”は高くなり（66.6%→70.8%）、「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた“続けていくのは難しい”は低くなっています（26.3%→16.4%）。

【働きながらの介護継続の可否】



## 集計分析結果：5つの検討点からの分析

### (1) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

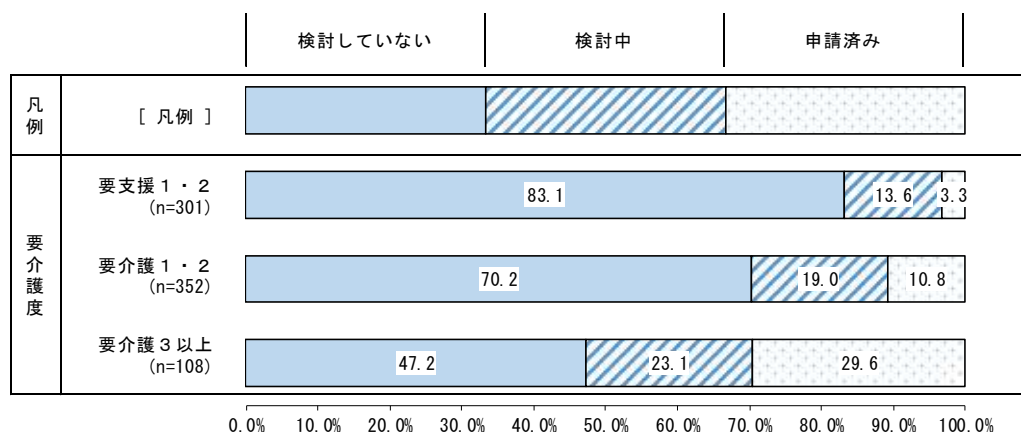
#### ① 施設等への入居・入所の検討状況

要介護度が高いほど施設等への入所・入居を検討している割合が高くなっているほか、単身世帯でも高くなっています。また、通所系・短期入所系サービスのみを利用している方では、入居・入所を検討している人が高くなっています。

#### ●要介護度別・施設等検討の状況

- 要介護度別・施設等検討の状況について、すべての区分で「検討していない」の割合が高くなっています。
- 要介護度が高いほど「検討中」「申請済み」を合わせた“検討している”の割合が高く、要介護3以上では5割を超えています。また、要介護3以上では約3割が「申請済み」となっています。

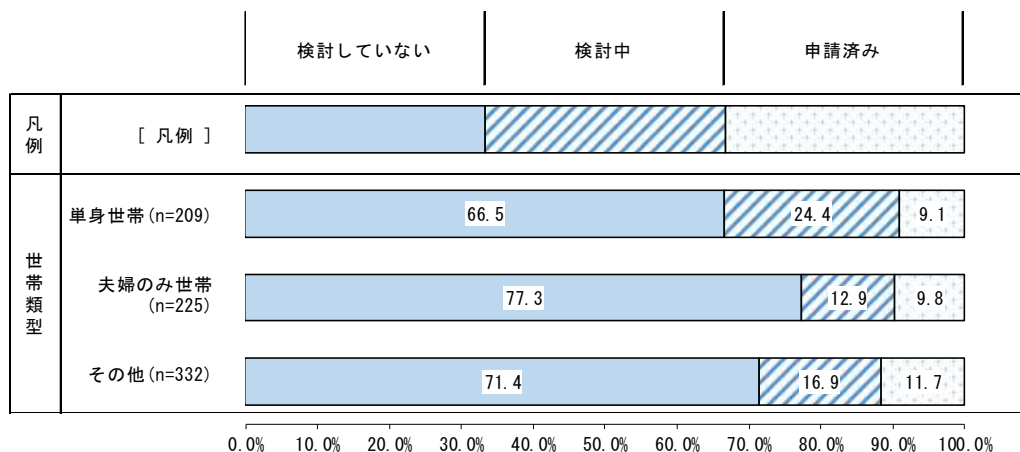
【要介護度別・施設等検討の状況】



#### ●世帯類型・施設等検討の状況

- 世帯類型別・施設等検討の状況について、すべての区分で「検討していない」の割合が最も高くなっています。
- 単身世帯では、「検討中」が他の区分に比べて高くなっています。

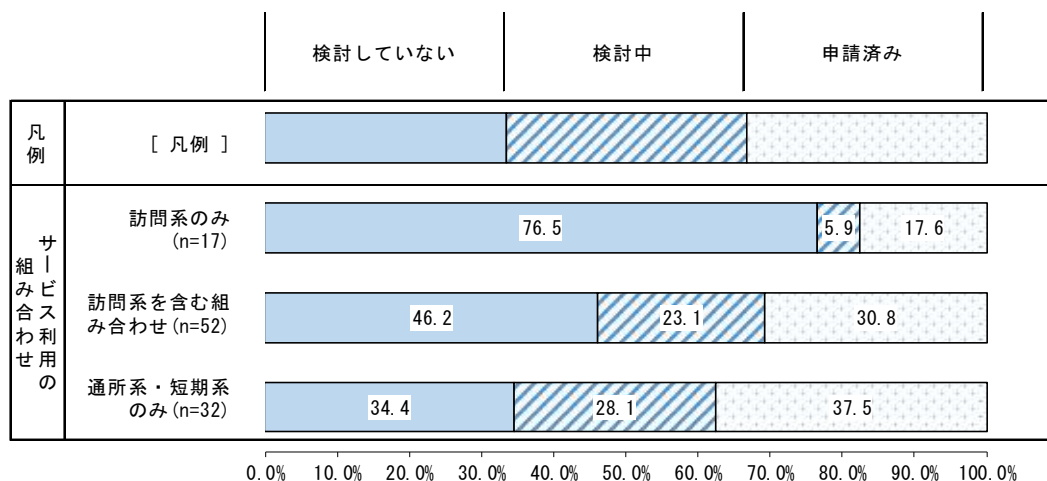
【世帯類型・施設等検討の状況】



● サービス利用の組み合わせ・施設等検討の状況（要介護3以上）

- サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）をみると、訪問系のみ利用している人では「検討していない」が7割を超え高く、訪問系を含む組み合わせで利用している人では約5割となっています。
- 通所系・短期入所系のみ利用している人では「申請済み」が約4割と高くなっています。

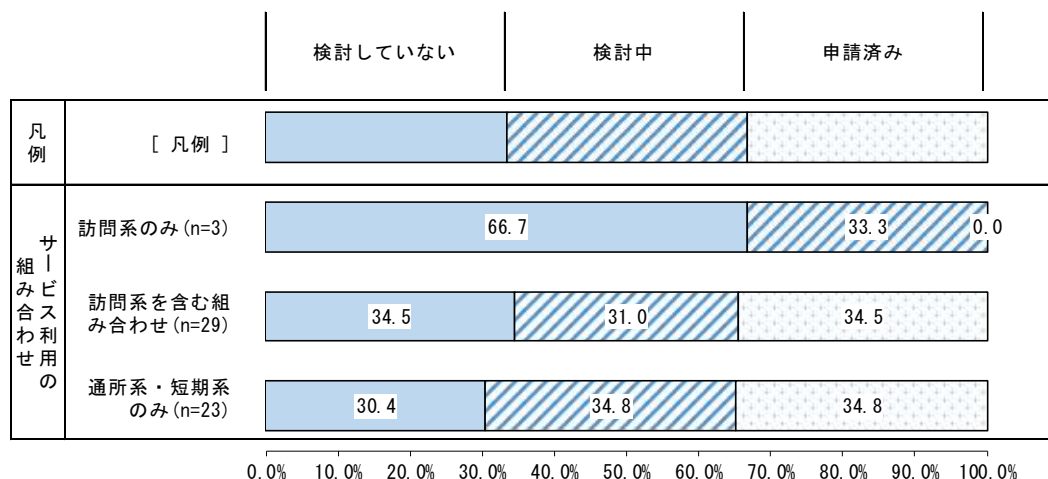
【サービス利用の組み合わせ・施設等検討の状況（要介護3以上）】



● サービス利用の組み合わせ・施設等検討の状況（認知症自立度Ⅲ以上）

- サービス利用の組み合わせ（認知症自立度Ⅲ以上）をみると、訪問系のみ利用している人では「検討していない」が6割を超えています。
- 訪問系を含む組み合わせで利用している人、通所系・短期入所系のみ利用している人では、「検討していない」「検討中」「申請済み」がそれぞれ同程度となっています。

【サービス利用の組み合わせ・施設等検討の状況（認知症自立度Ⅲ以上）】





## ② 介護者が不安に感じる介護

要介護度重度者の主な介護者が不安に感じる介護は、「夜間の排泄」「日中の排泄」「認知症状への対応」の割合が高くなっています。訪問系サービスを利用している人では「認知症状への対応」を不安に感じる割合は低くなっています。

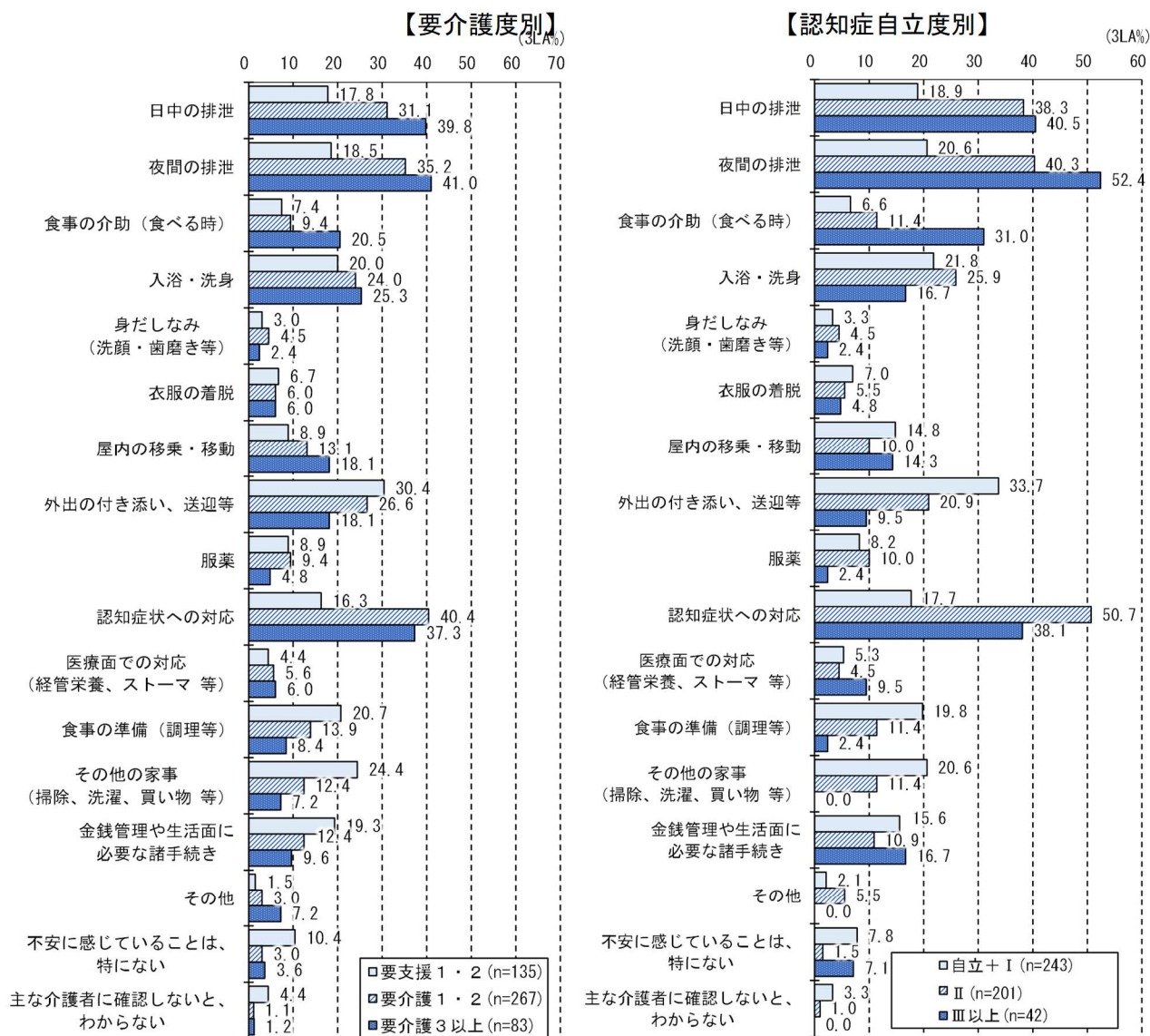
### ● 要介護度別/認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護

#### 【要介護度別】

- 要介護度別にみると、介護者が不安に感じる介護について、要支援1・2では「外出の付き添い・送迎等」の割合が最も高く、次いで「その他の家事」となっています。要介護1・2では「認知症状への対応」が最も高く、次いで「夜間の排泄」が高くなっています。要介護3以上では「夜間の排泄」が最も高く、「日中の排泄」「認知症状への対応」も高くなっています。

#### 【認知症自立度別】

- 認知症自立度別にみると、認知症自立度が低いほど、「日中の排泄」「夜間の排泄」「食事の介助」の割合が高くなっています。また、認知症自立度Ⅱ以上では「認知症状への対応」を不安に感じる介護者が高くなっています。





●訪問系サービスの利用回数・介護者が不安に感じる介護

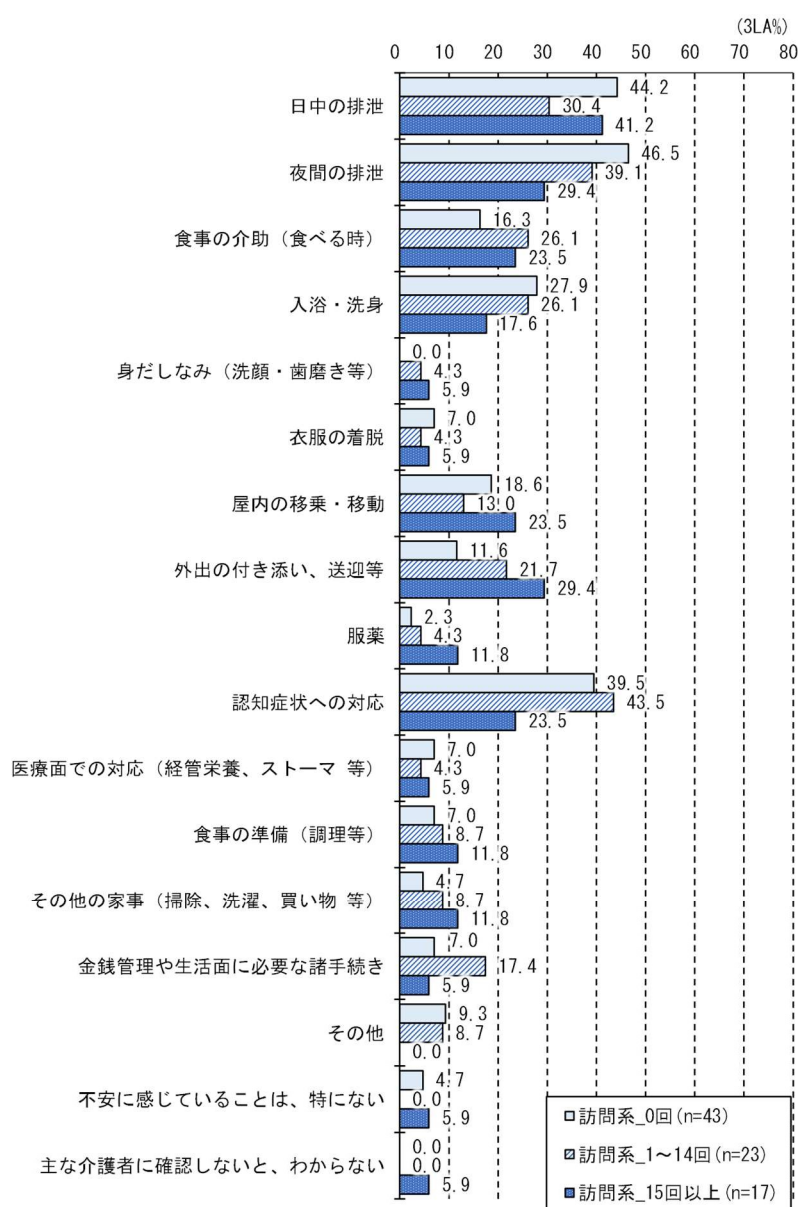
【要介護3以上】

- 要介護3以上の人をみると、訪問系サービスを利用している人では利用していない人に比べ、「夜間の排泄」「入浴・洗身」などを不安に感じる介護者の割合が低くなっています。
- 訪問系サービスを月15回以上利用している人では他の利用回数の人に比べて、「認知症状への対応」の割合が低くなっています。

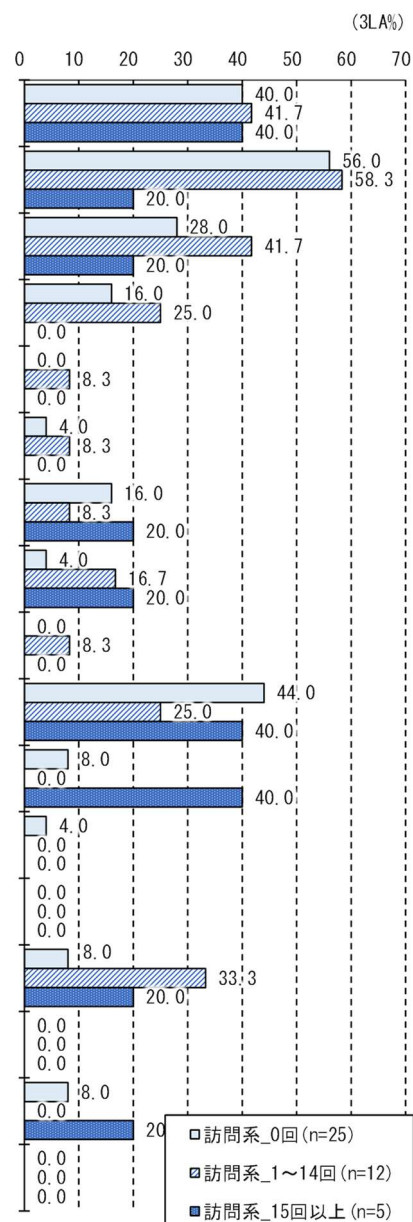
【認知症自立度Ⅲ以上】

- 訪問系サービスを月15回以上利用している人の介護者では「夜間の排泄」が20.0%と比較的低くなっていますが、40.0%が、「日中の排泄」「認知症状への対応」「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」を不安に感じています。

【要介護3以上】



【認知症自立度Ⅲ以上】



●通所系サービスの利用回数・介護者が不安に感じる介護

- 通所系サービスを月 15 回以上利用している人でも、3～5 割程度の介護者が「日中の排泄」を、7 割以上の介護者が「夜間の排泄」を不安に感じています。

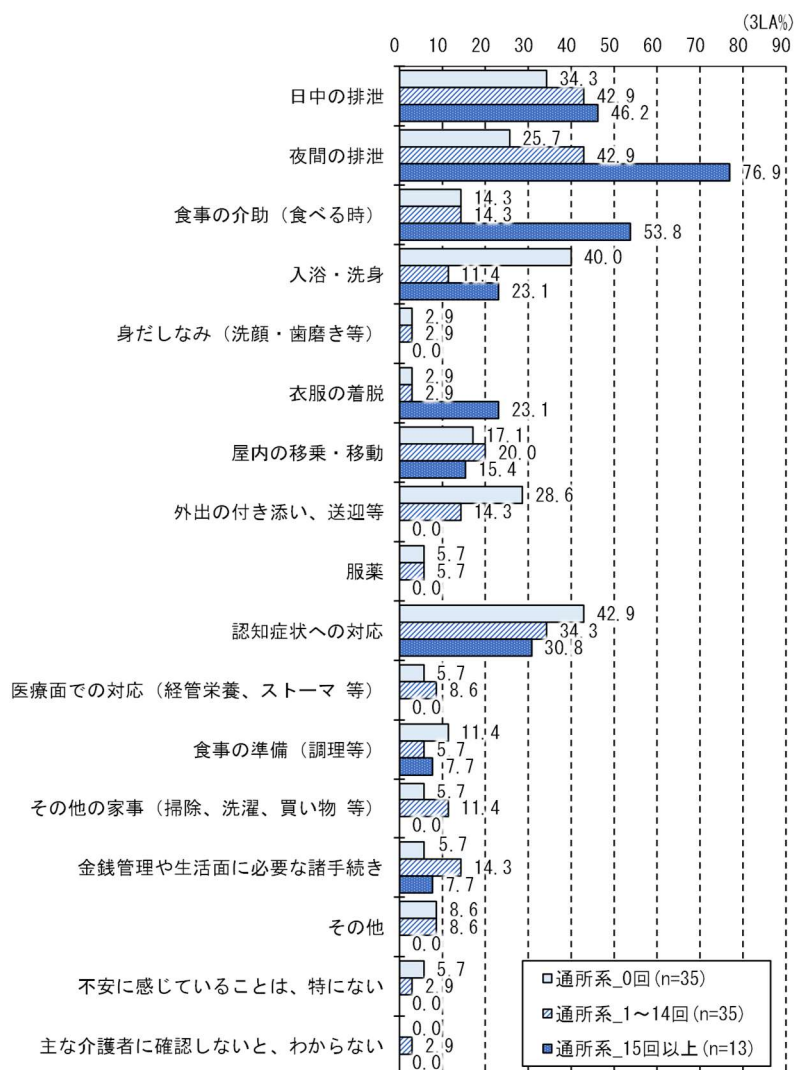
【要介護 3 以上】

- 要介護 3 以上の人をみると、通所系サービスを利用している人では利用していない人に比べ、「認知症状への対応」を不安に感じる介護者の割合がやや低い傾向がみられます。

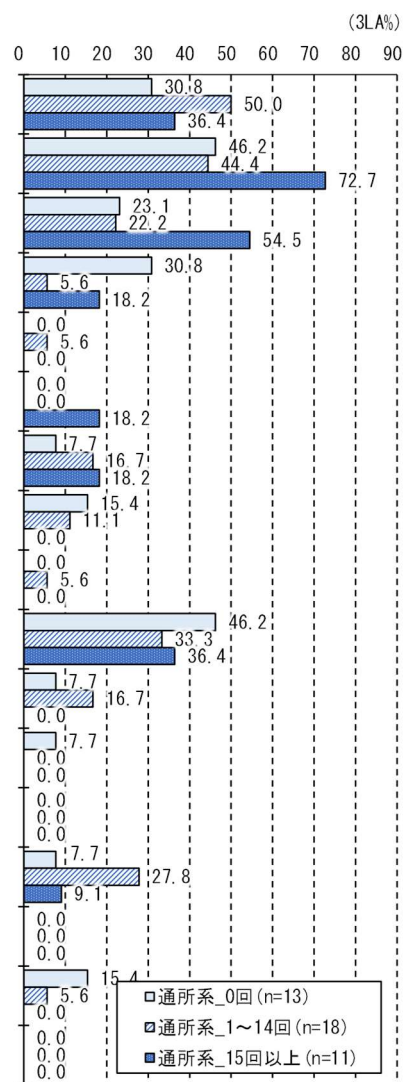
【認知症自立度Ⅲ以上】

- 認知症自立度Ⅲ以上の人をみると、通所系サービスを利用している人では利用していない人に比べ、「認知症状への対応」を不安に感じる介護者の割合が低い傾向がみられます。

【要介護 3 以上】



【認知症自立度Ⅲ以上】



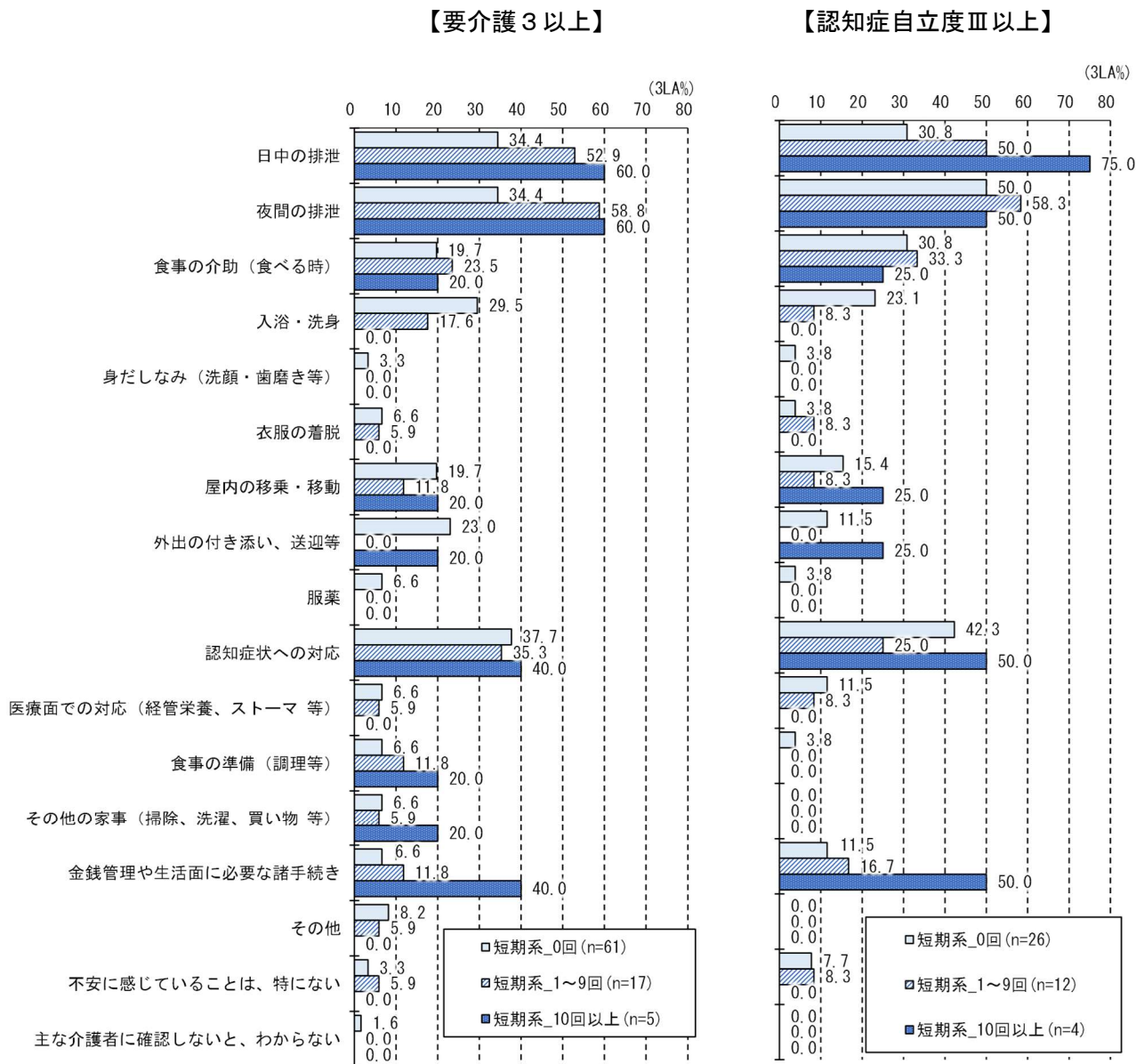
●短期入所系サービスの利用回数・介護者が不安に感じる介護

【要介護3以上】

- 要介護3以上の人をみると、短期入所系サービスを月10回以上利用している人の介護者では「入浴・洗身」「身だしなみ」「衣服の着脱」などの割合が低くなっています。

【認知症自立度Ⅲ以上】

- 短期入所系サービスを月10回以上利用している人の介護者では「入浴・洗身」「身だしなみ」「衣服の着脱」などの割合が低くなっています。



## (2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

### ① 就労状況

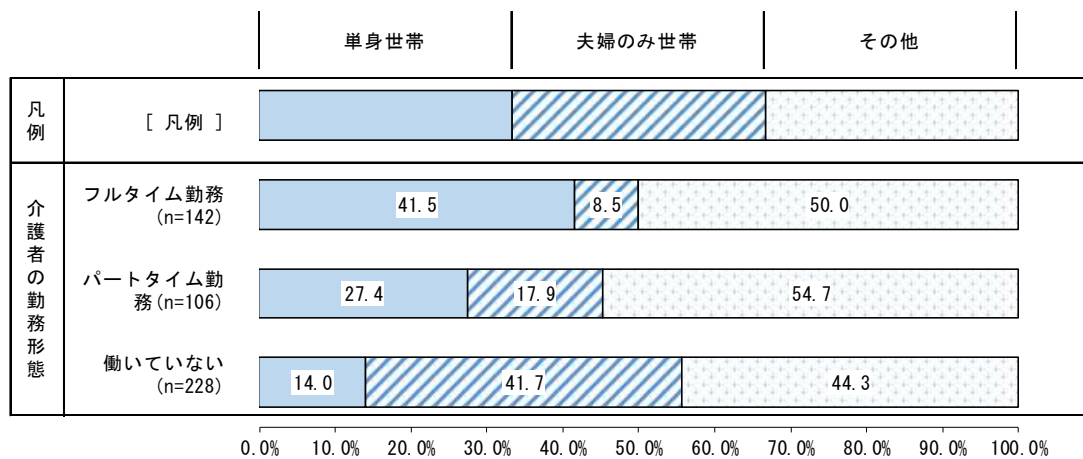
就労している介護者のうち、約1割は本人（調査対象者：以下同様）が要介護3以上の重度者であり、2割以上は介護保険サービスを利用していません。就労しながらの介護負担が大きくなる懸念があります。

フルタイム勤務の介護者では訪問系を含む組み合わせのサービス利用がやや高く、適切なサービス利用により就労を継続している可能性があります。

### ●世帯類型

○ フルタイム勤務では、「単身世帯」が41.5%と高くなっています。

【介護者の就労状況・世帯類型】

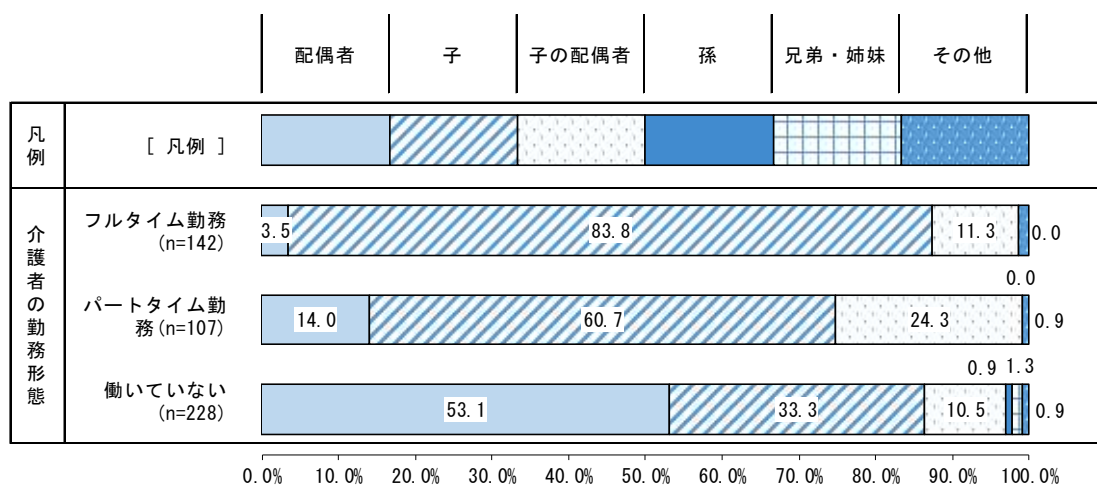


### ●主な介護者

○ フルタイム、パートタイム勤務では、「子」の割合が高くなっています。

○ 働いていない人では、「配偶者」の割合が高くなっています。

【介護者の就労状況・主な介護者】

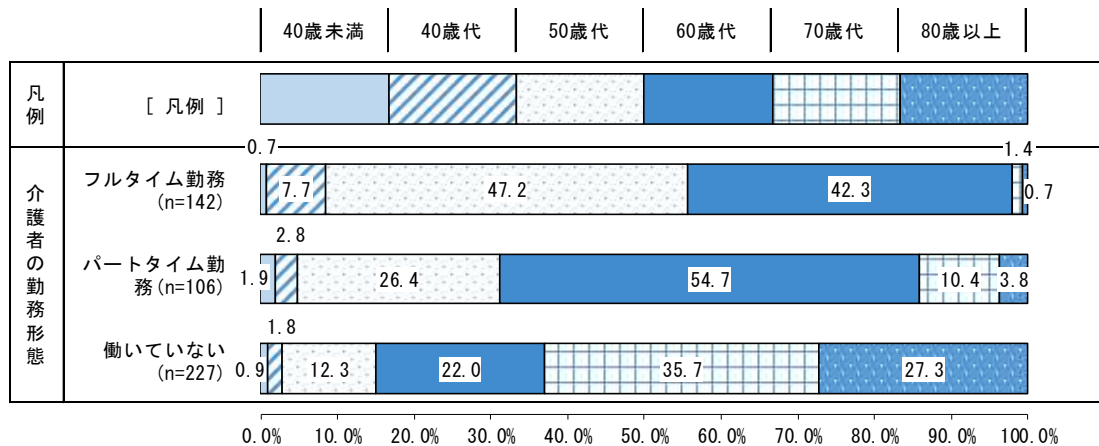




## ●主な介護者の年齢

- フルタイム勤務では、「50 歳代」以下が約 6 割となっています。
- パートタイム勤務では、「60 歳代」以上が約 7 割となっています。
- 働いていない人では、「60 歳代」以上が 8 割以上となっています。

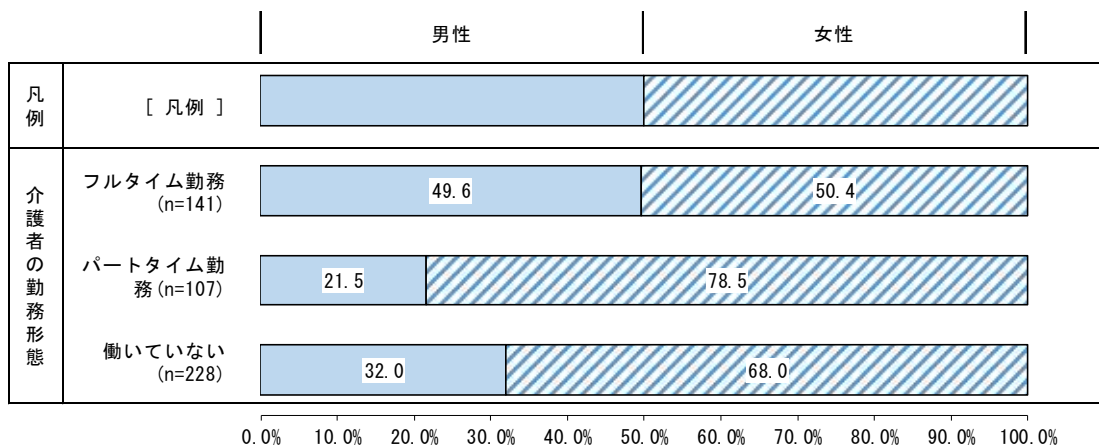
【介護者の就労状況・主な介護者の年齢】



## ●主な介護者の性別

- フルタイム勤務では「男性」「女性」が同程度の割合となっています。
- パートタイム勤務、働いていない介護者では女性の割合が高く、特にパートタイム勤務では、「女性」が 78.5%となっています。

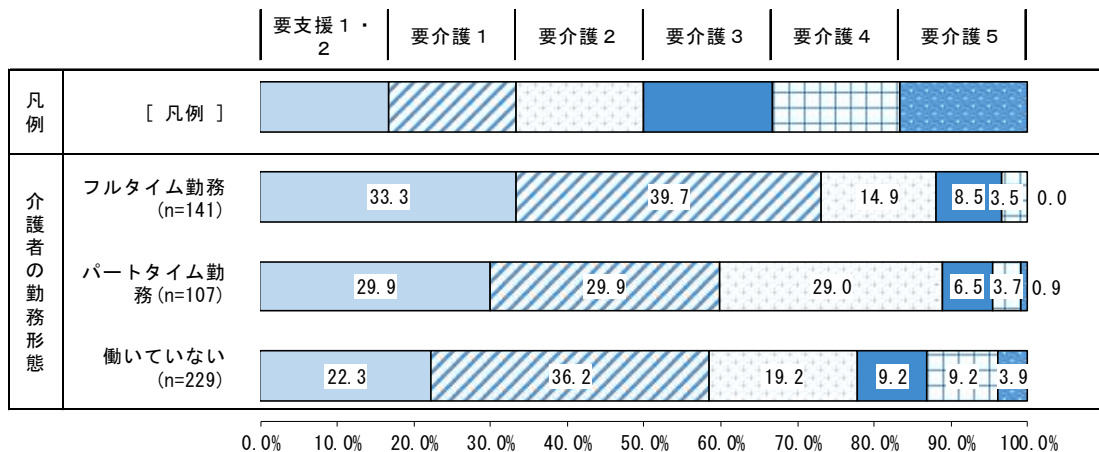
【介護者の就労状況・主な介護者の性別】



## ●本人の要介護度

- 就労している人はしていない人に比べて、「要介護 3 以上」の割合が低く、約 1 割となっています。

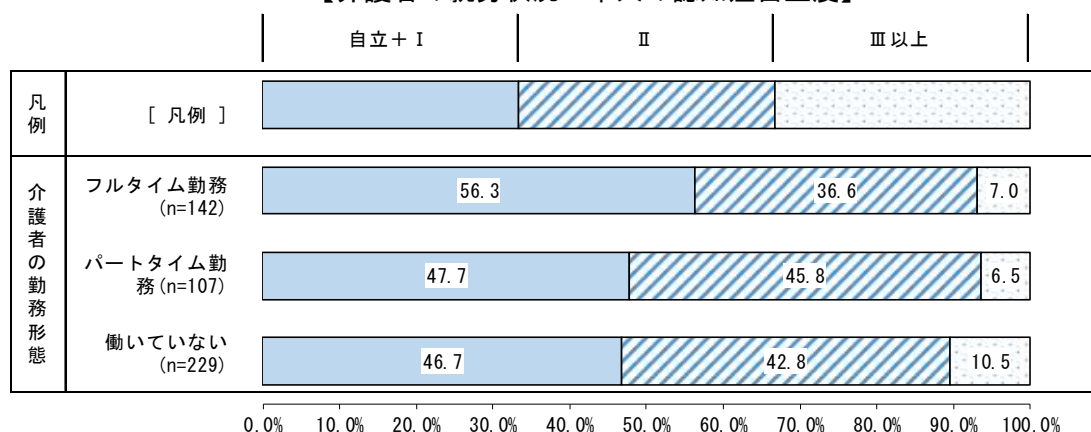
【介護者の就労状況・本人の要介護度】



● 本人の認知症自立度

- 働いていない人では認知症自立度Ⅲ以上の重度者の割合が他の区分に比べて高くなっています。

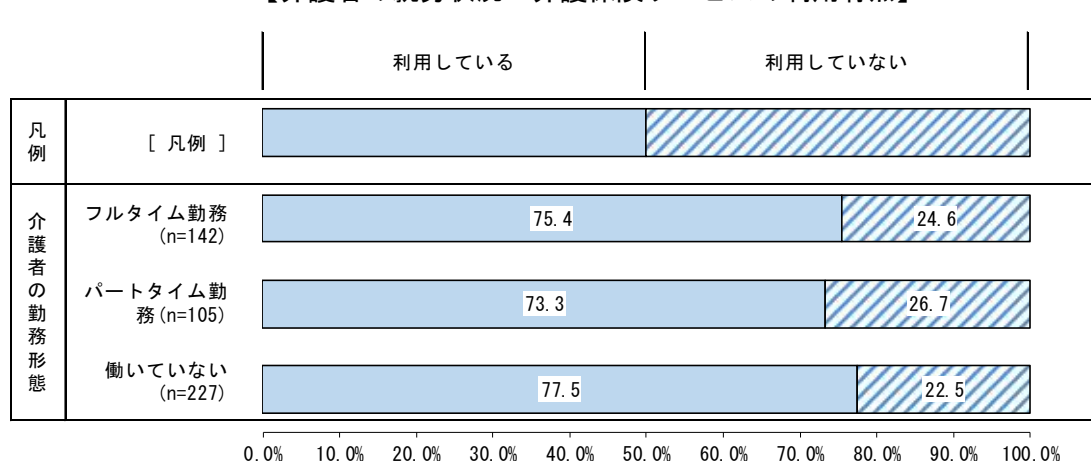
【介護者の就労状況・本人の認知症自立度】



● 介護保険サービスの利用有無

- いずれの就労状況においても2割以上が介護保険サービスを利用しておらず、パートタイム勤務では「利用していない」が26.7%でやや高くなっています。

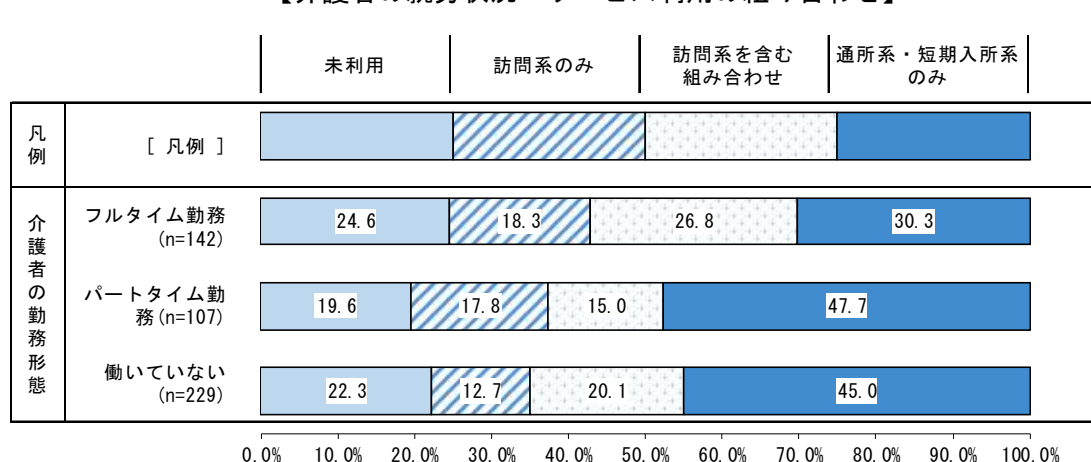
【介護者の就労状況・介護保険サービスの利用有無】



● サービス利用の組み合わせ

- フルタイム勤務では「訪問系を含む組み合わせ」が他の区分に比べて高く、「通所系・短期入所系のみ」が低くなっています。
- パートタイム勤務では「通所系・短期入所系のみ」が他の区分に比べて高くなっています。

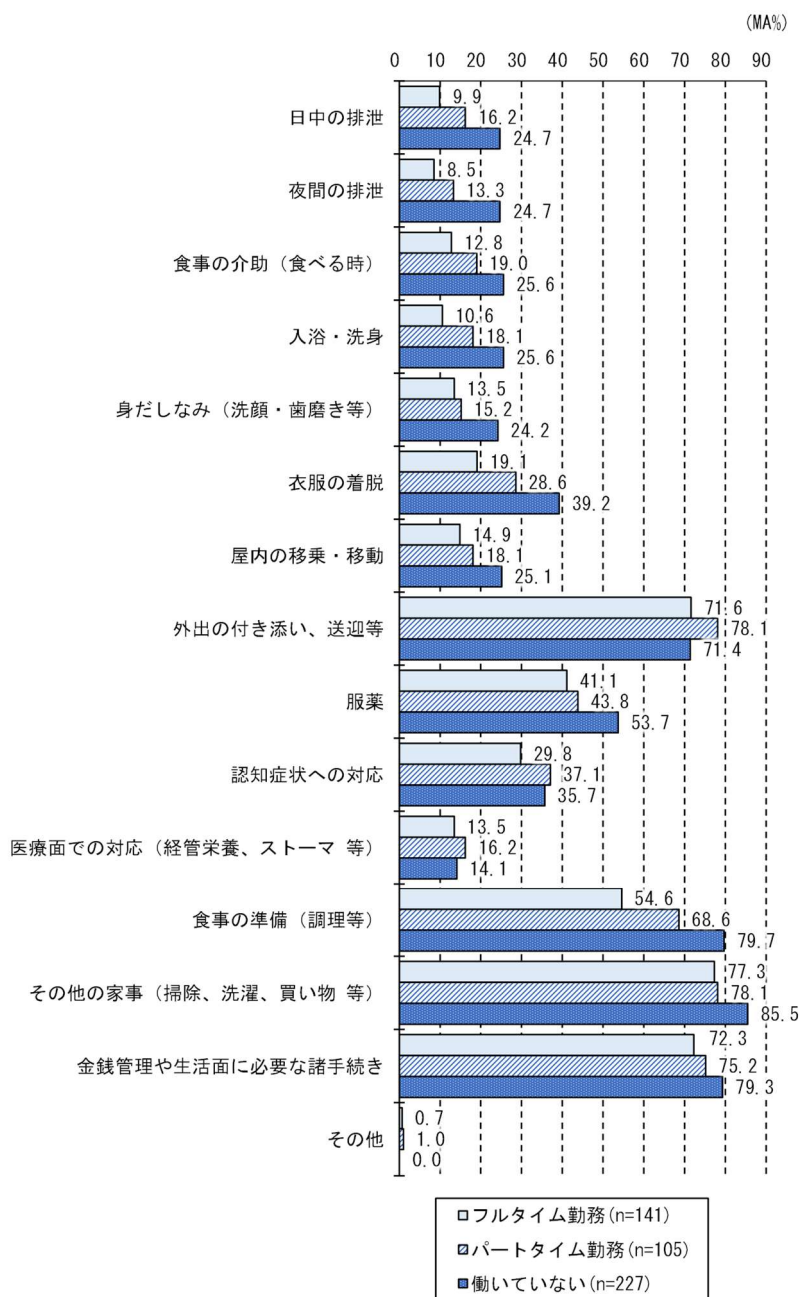
【介護者の就労状況・サービス利用の組み合わせ】



●主な介護者が行っている介護

- すべての勤務形態で、「外出の付き添い、送迎等」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が7割を超えています。
- 多くの項目で、就労時間が長いほど介護の割合が低い傾向がみられますが、「外出の付き添い、送迎等」「認知症状への対応」「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」では勤務形態による差が小さくなっています。

【介護者の就労状況・主な介護者が行っている介護】



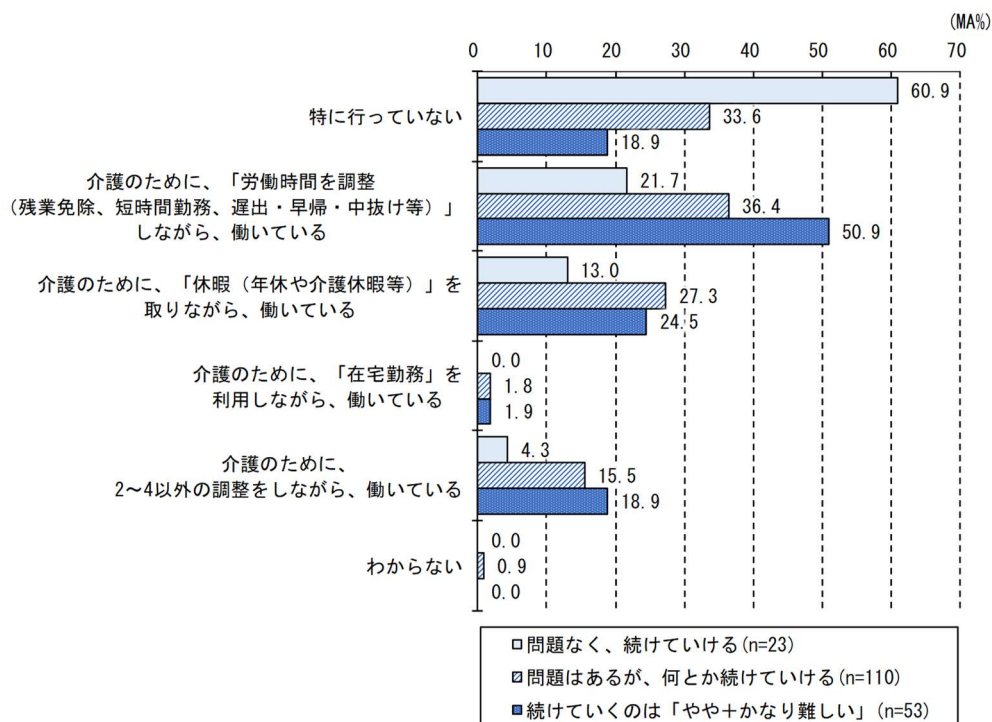
## ② 就労継続見込み

就労継続が困難な見込みである人は、介護のための働き方の調整を行っている人が高くなっています。就労継続のためには、経済的な支援や介護休業・介護休暇等の制度の充実とともに、制度を利用しやすい職場づくりが求められています。

### ●介護のための働き方の調整

- 問題なく、続けていける人では、「特に行っていない」が最も高く、60.9%となっています。
- 問題はあるが、何とか続けていける人では、「介護のために、労働時間を調整しながら、働いている」が36.4%で最も高く、「介護のために休暇を取りながら、働いている」が27.3%となっていますが、「特に行っていない」も33.6%となっています。
- 難しい人（続けていくのは、やや＋かなり難しい人：以下同様）では、「介護のために、労働時間を調整しながら、働いている」が約5割で最も高く、「介護のために、「休暇」を取りながら、働いている」が24.5%と高くなっています。

#### 【就労継続見込み・介護のための働き方の調整（フルタイム＋パートタイム勤務）】

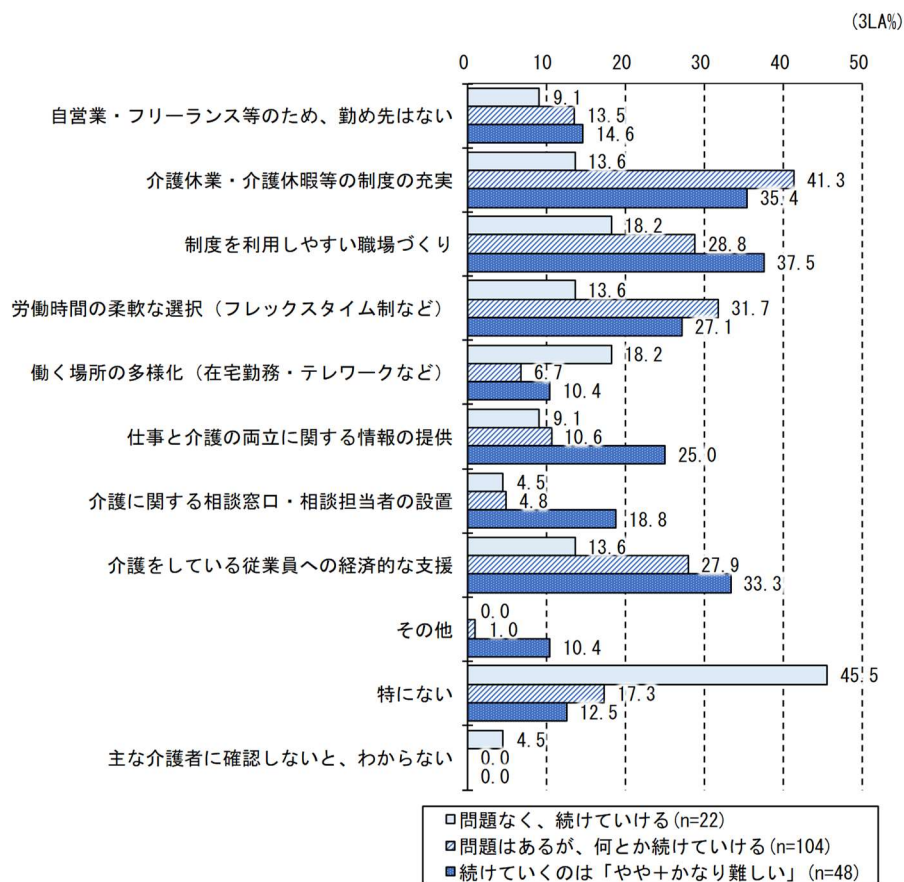




●効果的な勤め先からの支援

- 就労継続が難しい介護者ほど「特にない」が低く、難しい人では 12.5%であるのに対し、問題なく、続けていける人では 45.5%となっています。
- 問題はあるが、何とか続けていける人では、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が約 4 割で最も高くなっています。
- 難しい人では、「制度を利用しやすい職場づくり」が 37.5%で最も高く、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(35.4%)、「介護をしている従業員への経済的な支援」(33.3%) も高くなっています。
- 多くの項目で就労継続が難しい人ほど回答が高くなっていますが、「仕事と介護の両立に関する情報の提供」「介護に関する相談窓口・相談担当者の設置」では他の区分との差が特に大きくなっています。

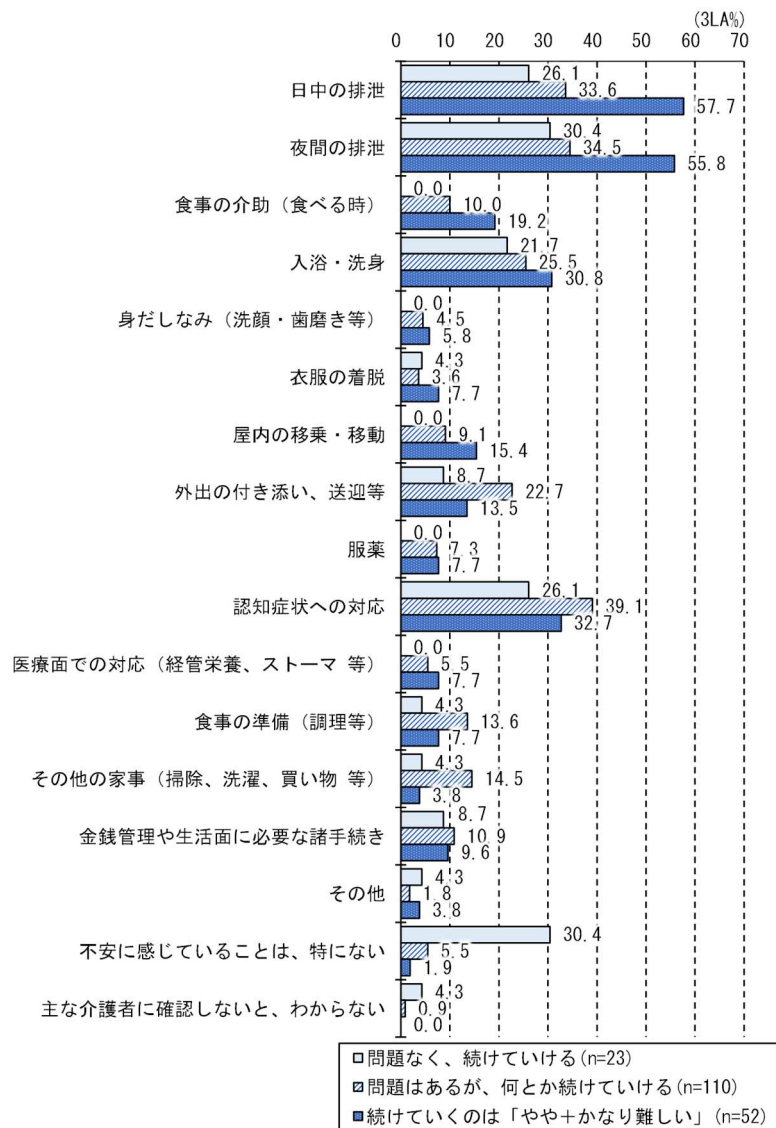
【就労継続見込み・効果的な勤め先からの支援（フルタイム＋パートタイム勤務）】



●就労継続見込み・介護者が不安に感じる介護

- 介護者が不安に感じる介護を就労継続見込み別にみると、多くの項目で就労継続が難しいほど回答が高くなっていますが、難しい人では他の区分に比べて、「日中の排泄」「夜間の排泄」が特に高くなっています。

【就労継続見込み・介護者が不安に感じる介護（フルタイム＋パートタイム勤務）】



### (3) 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

#### ① 保険外の支援・サービスの利用状況

単身世帯では、保険外の支援・サービスを利用している人の割合が他の世帯類型より高く、特に「見守り・声かけ」の割合が高くなっています。サロンなどの通いの場合は、夫婦のみ世帯、その他世帯の要支援1・2で割合が高くなっています。

#### ●要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況

##### 【単身世帯】

- 単身世帯をみると、全ての要介護度で他の世帯類型に比べて「利用していない」が低くなっています。
- 要介護度が高いほど「外出同行（通院・買い物など）」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」「その他」の利用割合が高い傾向がみられます。
- 「調理」「サロンなどの定期的な通いの場」は要介護3以上では利用がみられません。
- 「利用していない」は、逆に要介護度が高いほど利用割合が低くなっています。

##### 【夫婦のみ世帯】

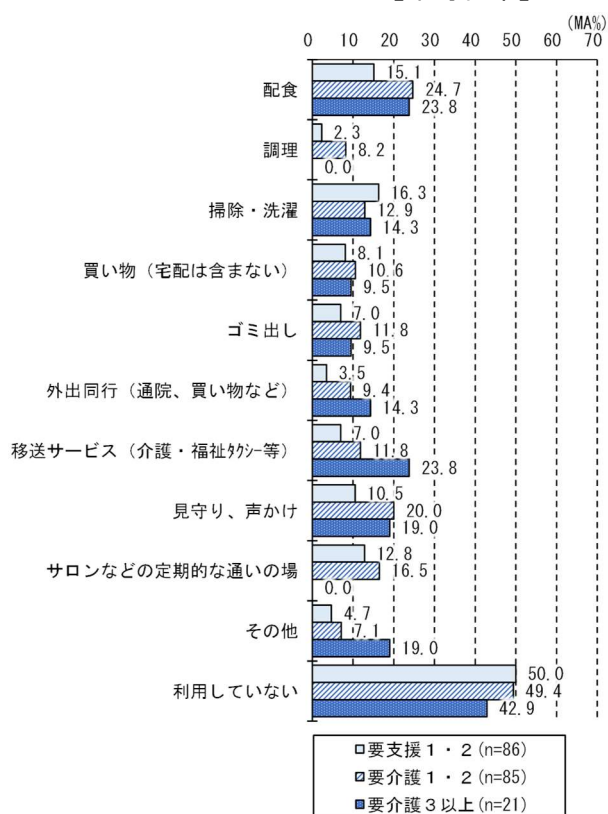
- 夫婦のみ世帯をみると、要介護度が高いほど「配食」の利用割合が高くなっています。
- 要介護度3以上では、他の要介護度に比べ「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」「その他」が高くなっています。

##### 【その他世帯】

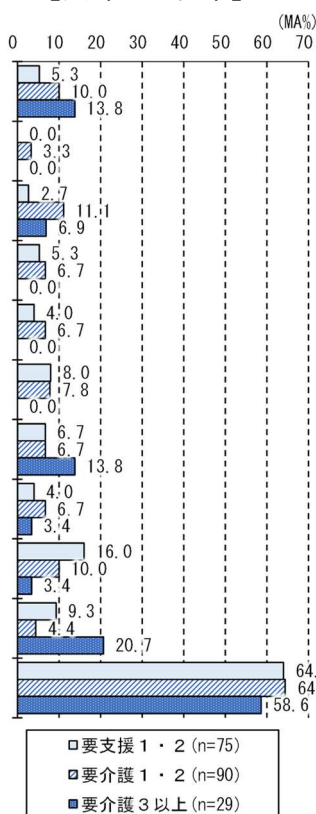
- その他世帯をみると、要支援1・2では他の要介護度に比べ「外出同行（通院・買い物など）」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」「サロンなどの定期的な通いの場」「その他」が高くなっています。

※その他世帯とは、単身世帯、夫婦のみ世帯以外の世帯を指します。

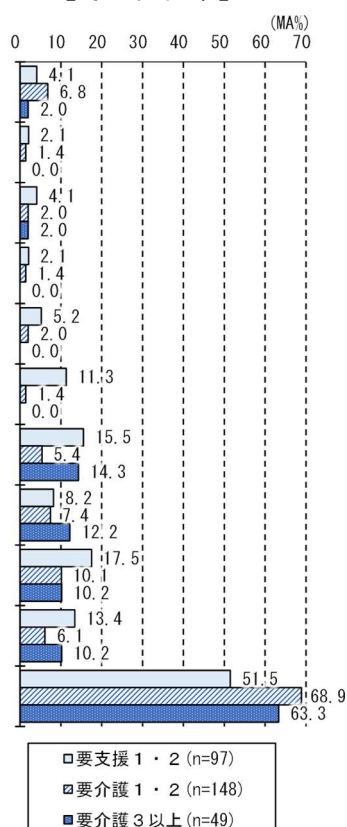
##### 【単身世帯】



##### 【夫婦のみ世帯】



##### 【その他世帯】



## ② 在宅生活の継続に必要な支援・サービス

ほとんどの支援・サービスにおいて、現在の利用状況（前頁参照）を上回っています。移送サービスは幅広い層から必要とされており、特に単身世帯の要介護3以上でニーズが高くなっています。単身世帯では、他にも「外出同行」や「掃除・選択」「買い物」などにおいて、夫婦のみ世帯やその他世帯に比べてニーズが高くなっています。

### ●要介護度別・在宅生活の継続に必要な支援・サービス

#### 【単身世帯】

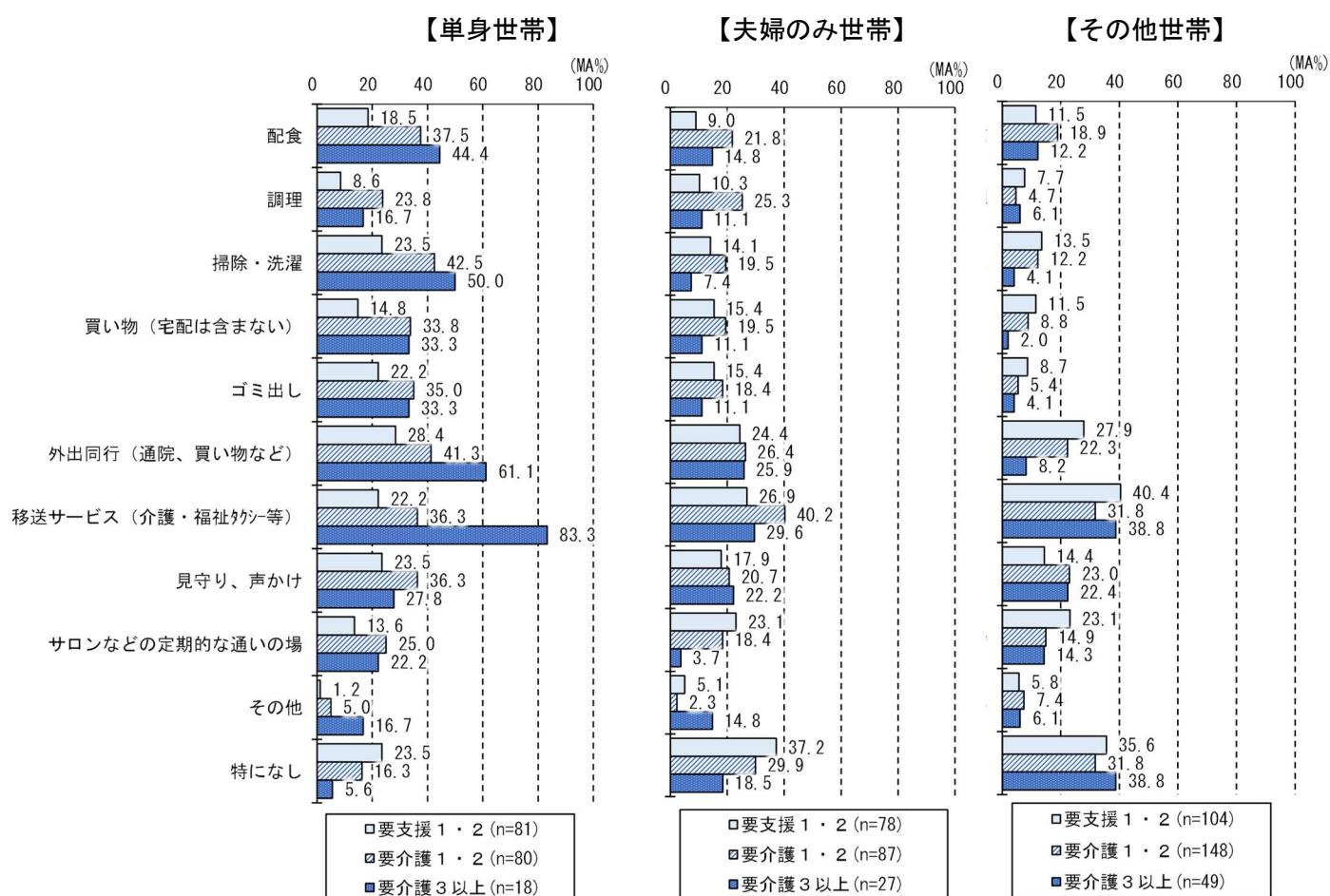
- 単身世帯をみると、全ての要介護において「特になし」は他の世帯類型に比べて低く、特に要介護3以上では5.6%となっています。
- 要介護3以上では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」83.3%と最も高く、次いで「外出同行（通院・買い物など）」が高く、他の要介護度に比べて特に高くなっています。
- 「配食」「掃除・洗濯」「外出同行（通院・買い物など）」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」では要介護が高いほど高くなっています。

#### 【夫婦のみ世帯】

- 夫婦のみ世帯をみると、要介護1・2では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が最も高く、他の要介護度に比べても高くなっています。
- 要介護度が高いほど「特になし」の割合が低くなっています。

#### 【その他世帯】

- その他世帯をみると、いずれの要介護度でも「移送サービス」が最も高くなっています。
- 「外出同行（通院・買い物など）」は要介護度が低いほど高くなっています。





#### (4) 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

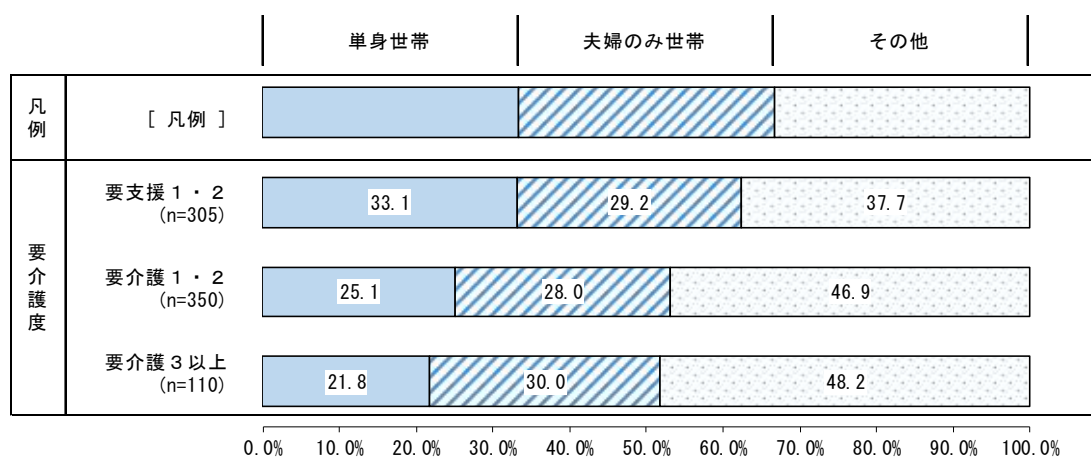
##### ① 世帯類型

要介護3以上では要介護1・2に比べて単身世帯の割合が低いですが、単身世帯の約1割、夫婦のみ世帯の約15%が要介護3以上となっています。

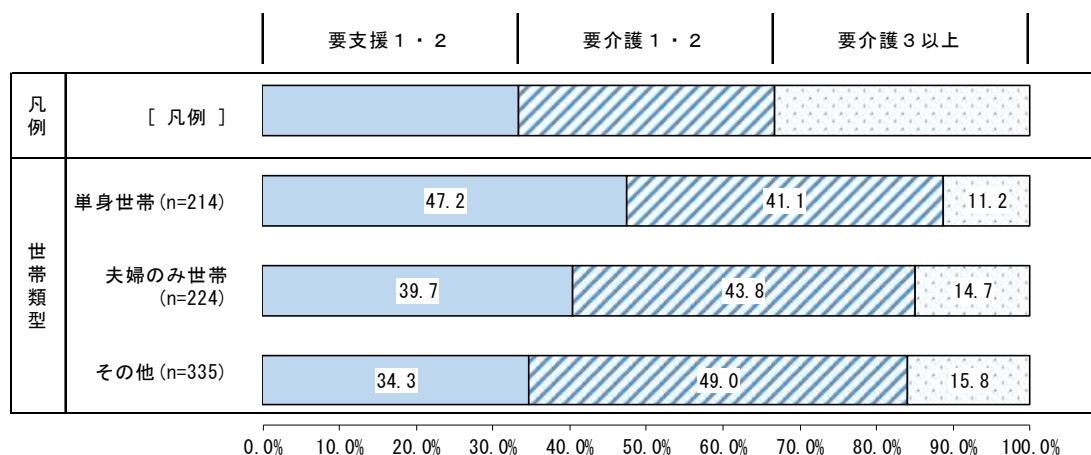
##### ● 要介護度

- 要介護度別に世帯類型をみると、要介護度が高いほど「単身世帯」の割合が低く、「その他」が高い傾向がみられます。
- 世帯類型別に要介護度をみると、単身世帯では他の区分に比べて要介護度が軽度の人割合が高くなっていますが、「要介護3以上」も11.2%となっています。

【要介護度別・世帯類型】



【世帯類型別・要介護度】



## ② サービス利用の組み合わせ

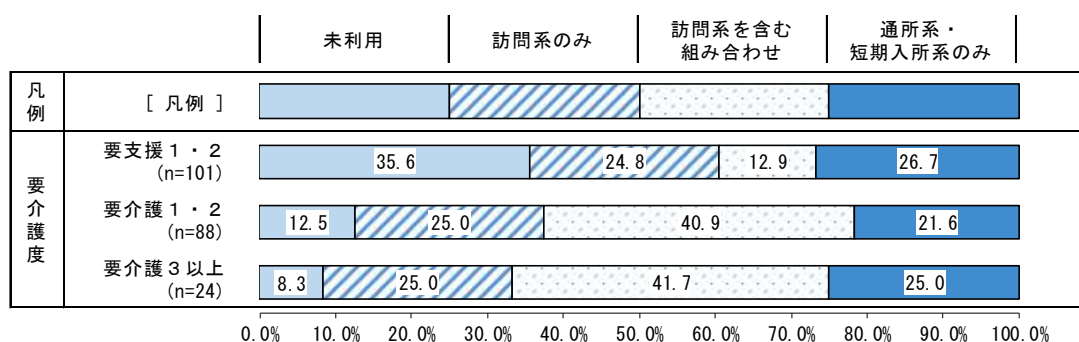
すべての世帯類型において、要介護度が高いほど「未利用」の割合が低い傾向がみられます。

要介護3以上では「訪問系を含む組み合わせ」が高くなっています。

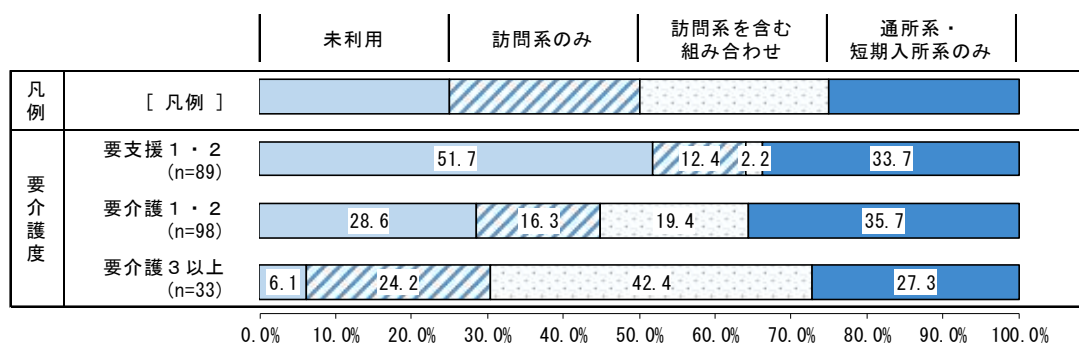
### ●要介護度

- 単身世帯をみると、要介護度が高いほど「訪問系を含む組み合わせ」が高い傾向がみられます。また、すべての要介護度において他の世帯類型に比べ「未利用」が低くなっています。
- 夫婦のみ世帯、その他世帯をみると、要介護度が高いほど「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高い傾向がみられます。
- 夫婦のみ世帯、その他世帯では、要支援1・2、要介護1・2において「通所系・短期入所系のみ」の割合が高くなっています。

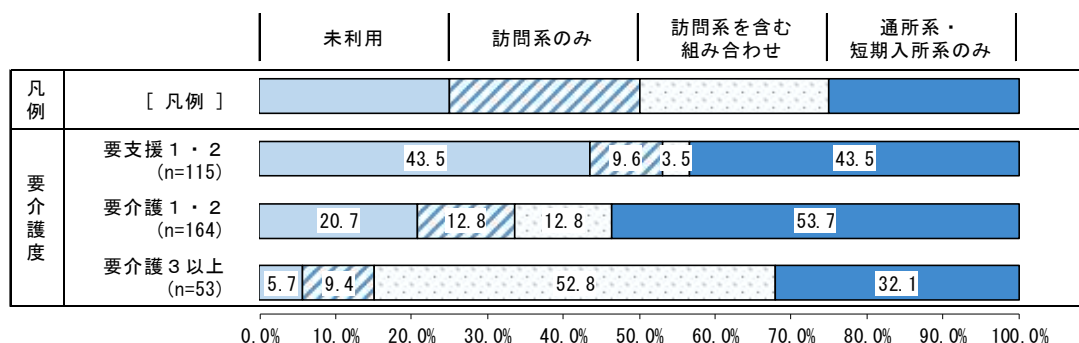
【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）】



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）】



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）】



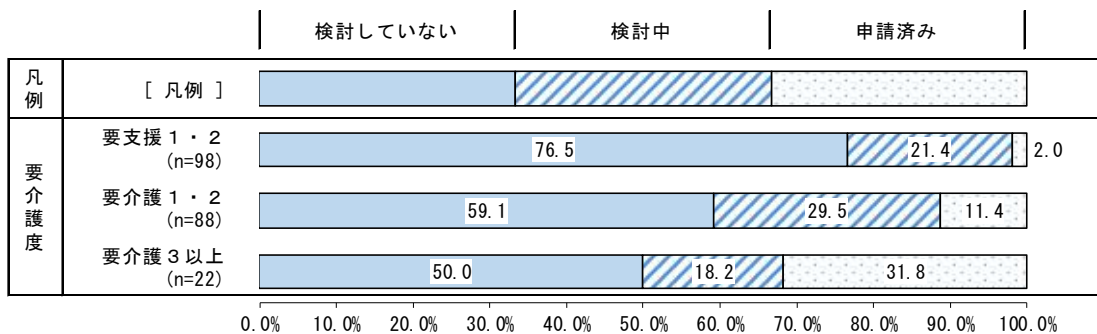
### ③ 施設等への入所・入居の検討状況

すべての世帯類型において、要介護度が高いほど「検討中」「申請済み」を合わせた“検討している”の割合が高くなっています。

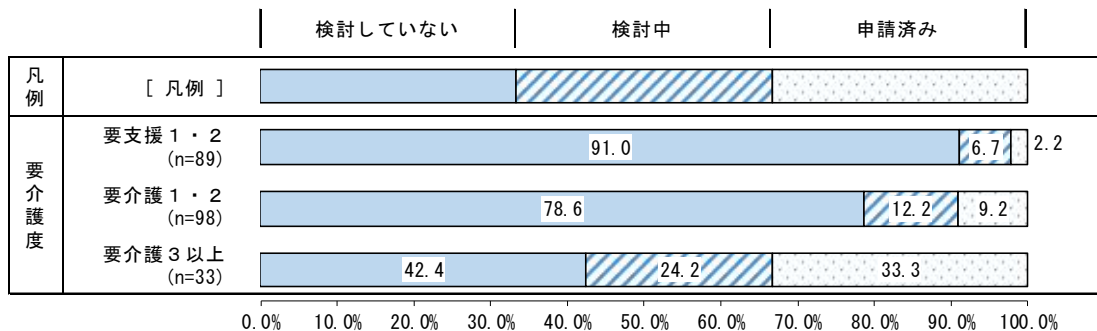
#### ●要介護度

- 単身世帯をみると、要介護3以上では「検討中」「申請済み」を合わせた“検討している”が5割となっています。
- 夫婦のみ世帯をみると、要介護3以上では“検討している”が5割を超えています。
- その他世帯をみると、要介護3以上では“検討している”が約5割となっています。

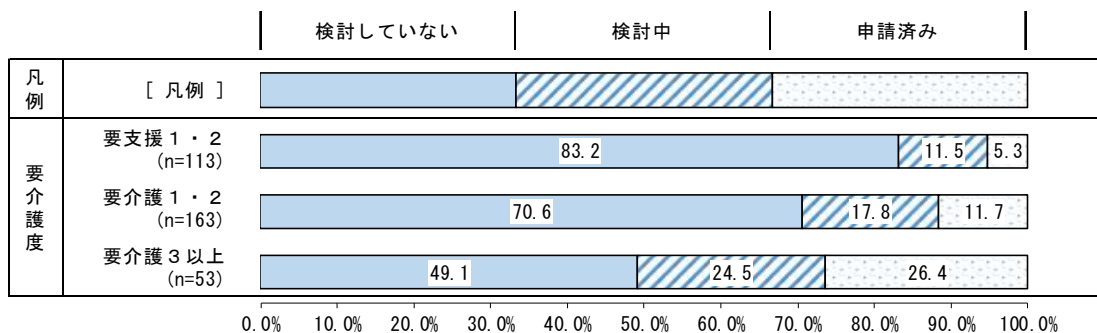
【要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）】



【要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）】



【要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）】



## (5) 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

### ① 主な介護者が行っている介護（医療面での対応）

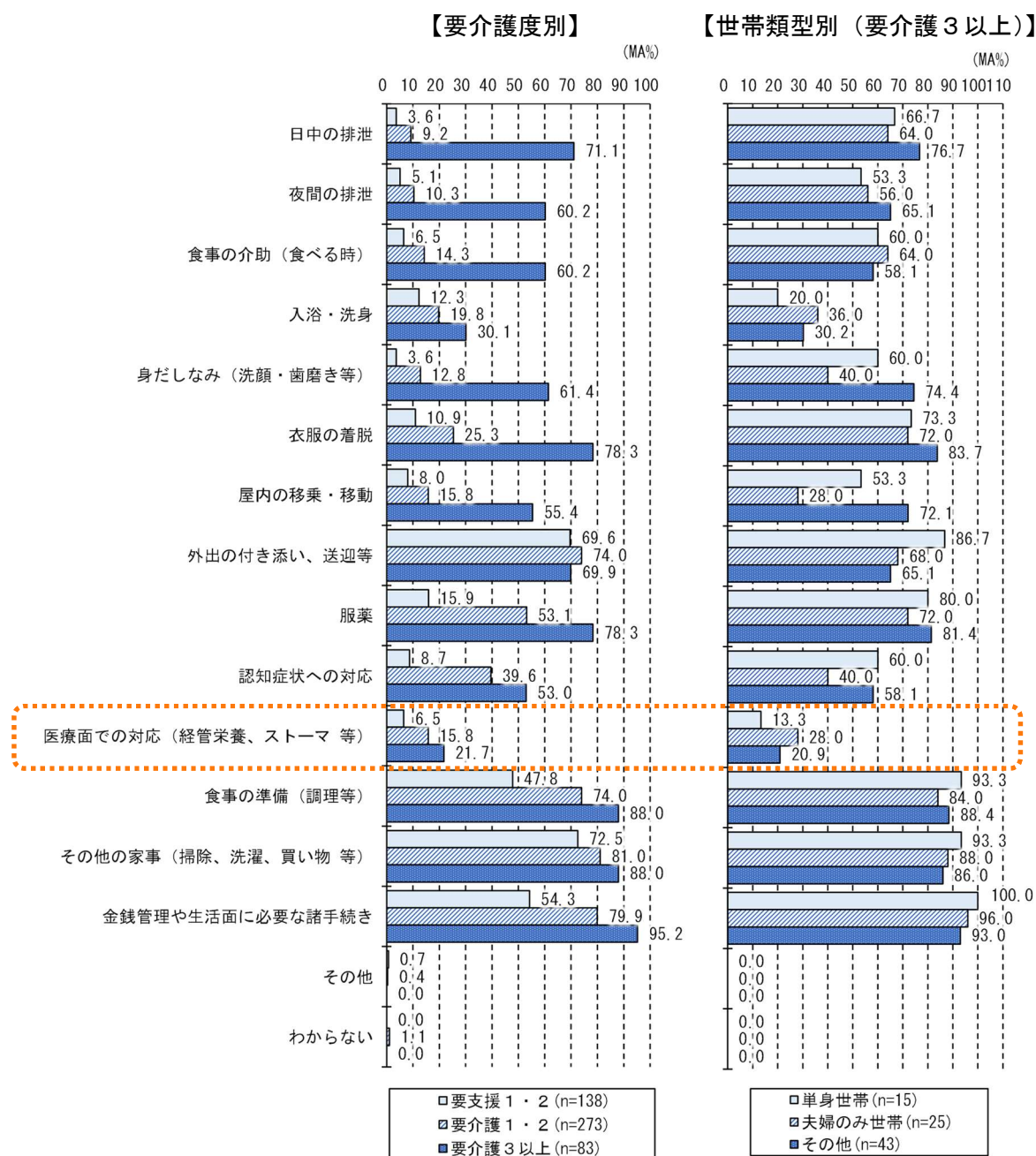
要介護3以上では、要介護1・2に比べ、医療面での対応を行っている介護者が高くなっています。夫婦のみ世帯、その他世帯では、単身世帯に比べて医療面での対応を行っている介護者が高くなっています。

#### 【要介護度別】

- 「医療面での対応」をみると、要支援1・2では6.5%、要介護1・2では15.8%、要介護3以上では21.7%と、要介護度が高いほど割合も高くなっています。

#### 【世帯類型別（要介護3以上）】

- 「医療面での対応」をみると、単身世帯では13.3%、夫婦のみ世帯では28.0%、その他世帯では20.9%となっています。





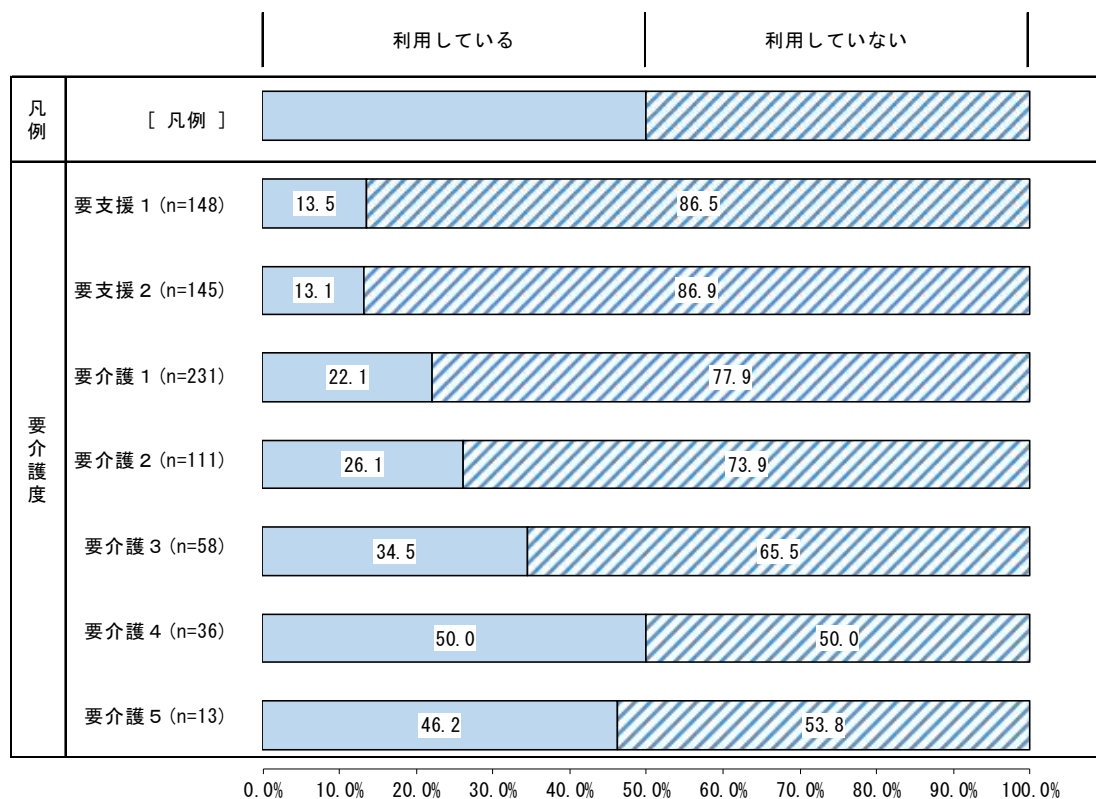
## ② 訪問診療の有無

要介護度が高いほど訪問診療を利用している割合が高い傾向がみられます。  
訪問診療を利用している人では、約7割が訪問系サービス、約8割が通所系サービスを併用しています。

### ● 要介護度

- おおむね要介護度が高いほど「利用している」割合が高い傾向がみられ、要支援1では13.5%、要支援2では13.1%であるのに対し、要介護4では50.0%、要介護5では46.2%となっています。

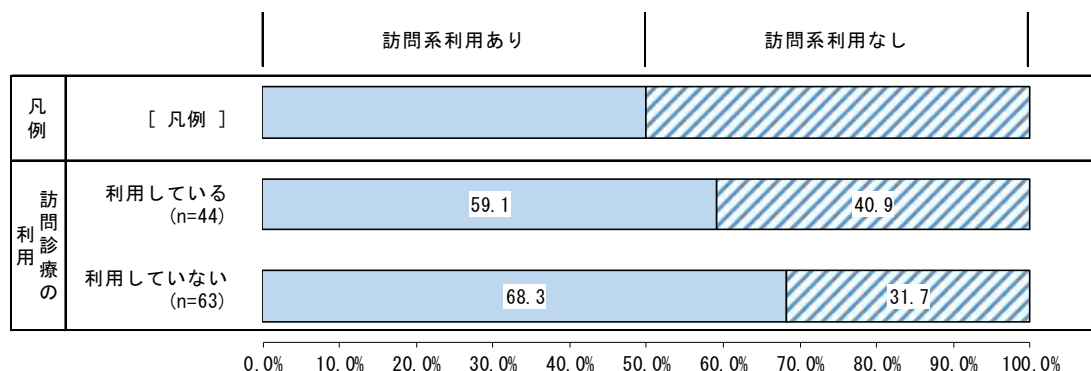
【要介護度別・訪問診療の利用有無】



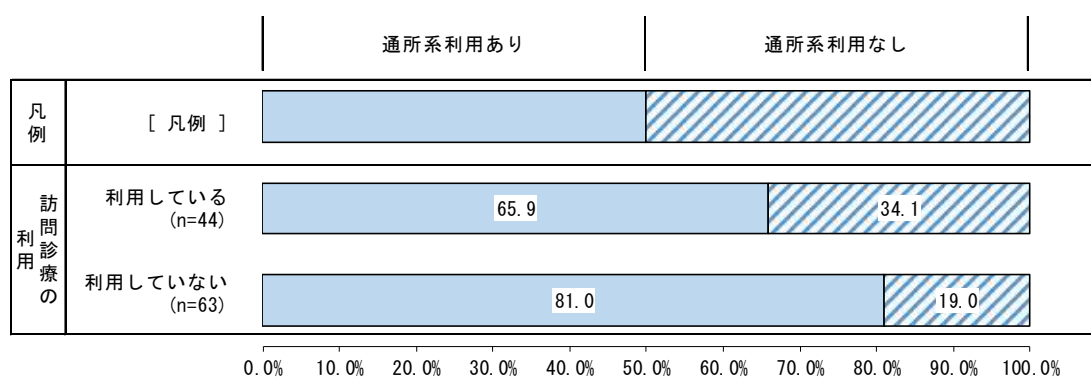
●介護保険サービスの利用有無

○ 訪問診療を利用している人をみると、「訪問系利用あり」は 59.1%、「通所系利用あり」は 65.9%、「短期入所系利用あり」は 29.5%となっています。

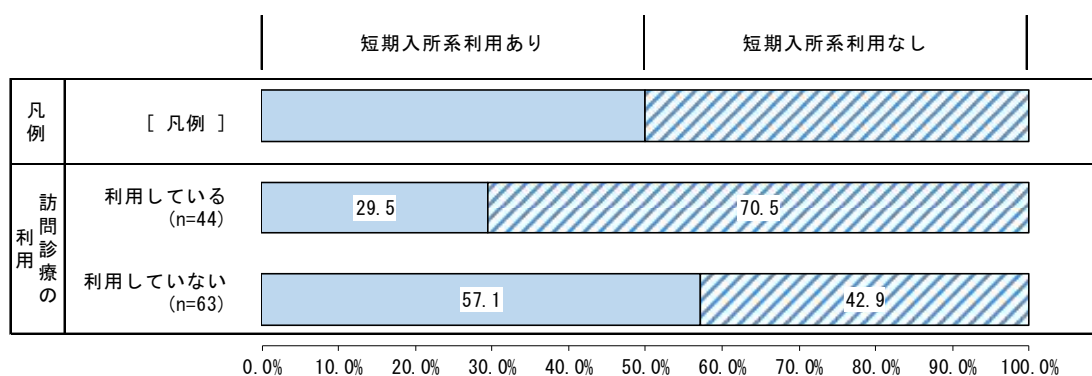
【訪問診療の利用有無・サービスの利用有無（訪問系、要介護3以上）】



【訪問診療の利用有無・サービスの利用有無（通所系、要介護3以上）】



【訪問診療の利用有無・サービスの利用有無（短期入所系、要介護3以上）】



## (6) その他

### ① サービス未利用理由

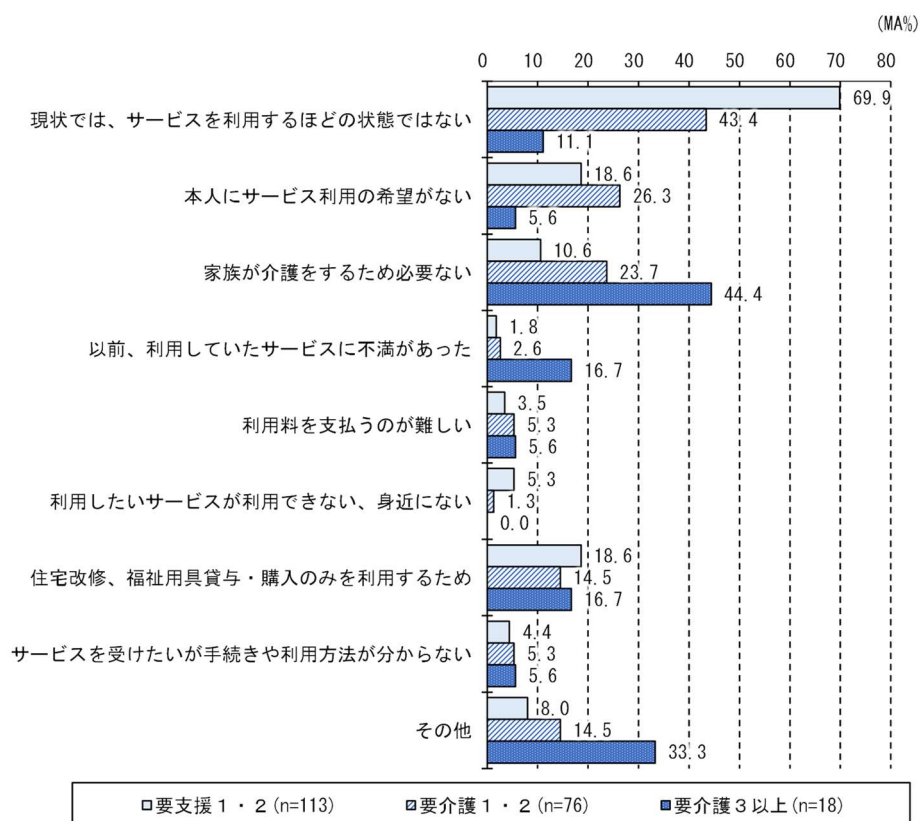
要介護度が高いほど、家族が本人を支えているためにサービスを利用していない割合が高くなっています。

要支援1・2、要介護1・2の2割程度で、本人にサービス利用の意思がないためにサービスを利用していません。

### ●要介護度別

- 要支援1・2では、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」69.9%で最も高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が18.6%となっています。
- 要介護1・2では、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が43.4%で最も高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が26.3%、「家族が介護をするため必要ない」が23.7%となっています。
- 要介護3以上では、「家族が介護をするため必要ない」が44.4%で最も高く、次いで「その他」が33.3%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が15.4%となっています。

【要介護度別・サービス未利用理由】



## ② 主な介護者の年齢

調査対象者本人の年齢が70歳代では約6割、調査対象者本人の年齢が80歳以上では約2割で、主な介護者が70歳以上となっています。本市においても「老々介護」の現状がみられます。

### ●本人の年齢

- 本人の年齢が65～69歳では、主な介護者の年齢が「70歳代」が約4割となっています。
- 本人の年齢が70歳代では、主な介護者の年齢が「70歳代」が5割であり、「80歳以上」も13.2%となっています。
- 本人の年齢が80歳代では、主な介護者の年齢が「80歳以上」が21.3%と、他の区分に比べて高くなっています。
- 80歳代、90歳以上では、主な介護者の年齢が「50歳代」「60歳代」といった子の世代が高くなっています。

【本人の年齢・主な介護者の年齢】

